



消 防 年 報

令 和 3 年 版



い ち き 串 木 野 市 消 防 本 部

(令 和 4 年 刊 行)

は じ め に

この年報は、いちき串木野市消防本部の現況及び令和３年度における消防業務に関する諸般の事項を収録し、将来の参考に資するとともに、消防事情を広く一般に紹介し、理解と協力を得るため編集したものであります。

なお、この年報の統計資料は、原則として暦年をもって表し、予算に関する事項については、会計年度で作成し、それ以外のものについては、当該表にそれぞれ記載した年月日をもって表してあります。

令和４年６月

いちき串木野市消防本部

目 次

I 総 括

1	いちき串木野市の位置・概要	1
2	市域の変遷	2
3	消防の沿革	2～4
4	歴代消防長（いちき串木野市消防本部）	4

II 総 務

1	いちき串木野市消防本部・消防署の組織	5
2	消防本部・消防署・分遣所の事務分掌	6～7
3	いちき串木野市消防現勢分布図	8
4	消防庁舎等施設の状況	
(1)	消防本部（署）・分遣所	9
(2)	消防団	9
5	令和3年度の主な行事	10
6	消防予算	
(1)	消防予算の内訳	11
(2)	市総予算と消防予算	12
(3)	消防予算と人口・世帯数との比較	12
7	人事・教養	
(1)	消防職員の配置状況	13
(2)	消防職員の階級別年齢構成	13
(3)	消防職員の階級別勤続年数構成	14
(4)	消防職員研修状況	14
8	消防団	
(1)	消防分団所轄区域、定員及び幹部名	15
(2)	消防団員の階級別勤続年数構成	16
(3)	消防団員の階級別年齢構成	16
(4)	消防団員出場状況	17
(5)	消防団員の報酬等	17
9	いちき串木野市消防連合後援会	18
10	表 彰	18

III 予防・危険物

1	防火対象物の状況	19
2	防火対象物階層別状況（4階以上・棟数）	20
3	建築同意事務等処理状況	
(1)	建築同意状況	21
(2)	専用住宅建築確認通知状況	21

4	消防用設備等設置検査実施状況	2 1
5	消防法関係届出状況	2 2
6	火災予防条例関係届出状況	2 3
7	防火啓発状況	2 4
8	危険物施設の状況	2 4
9	危険物関係許可・検査処理状況	2 5
1 0	危険物施設の立入検査状況	2 5
1 1	液化石油ガス等の保安指導状況	2 6
1 2	串木野国家石油備蓄基地の概要及び現況	2 7 ～ 2 9
1 3	消防協力団体の結成状況	
(1)	いちき串木野市幼少年婦人防火委員会	3 0
(2)	幼年消防クラブ	3 0
(3)	婦人防火クラブ	3 0
(4)	防火管理協会	3 1
(5)	危険物安全協会	3 1

IV 火災・救急・救助

1	令和 3 年中の火災発生状況	3 2
2	火災統計	
(1)	令和 3 年中の火災状況	3 3
(2)	過去 5 年間の年別火災概要	3 4
(3)	過去 5 年間の原因別火災発生件数	3 4
(4)	過去 5 年間の月別火災発生件数	3 5
(5)	過去 5 年間の曜日別火災発生件数	3 5
(6)	過去 5 年間の時刻別火災発生件数	3 6
(7)	火災発生時の気象状況	3 7
3	救急業務統計	
(1)	救急業務取扱状況	3 8
(2)	傷病程度別搬送状況	3 8
(3)	診療科目別搬送状況	3 9
(4)	搬送別状況	3 9
(5)	覚知別出場状況	3 9
(6)	居住地別搬送状況	3 9
(7)	救急救命処置実施状況	3 9
(8)	救命処置実施状況	3 9
(9)	月別救急出場状況及び搬送人員の状況	4 0
(10)	曜日別救急出場状況	4 1
(11)	現場到着所要時間別出場件数	4 1
(12)	収容所要時間別搬送人員	4 1
(13)	時間別出場状況（総件数及び急病件数）	4 2
(14)	市別搬送状況（搬送先）	4 2
(15)	救急出場件数の推移	4 3

(16) 過去5年間の救急出場状況	4 3
(17) 年齢別搬送人員状況	4 4
(18) 各比率	4 4
4 救助業務統計	
(1) 救助出動状況	4 5
(2) 過去5年間の救助出動状況	4 5
5 応援協定等の締結状況	4 6

V 機械・水利

1 基準消防力と現有消防力との比較	
(1) 消防本部（署）	4 7
(2) 消防団	4 7
(3) 消防職・団員と市民との割合	4 7
2 消防機械器具及び水利状況	
(1) 消防署の消防車両状況	4 8
(2) 消防団の消防車両及び小型ポンプの状況	
ア 串木野地域	4 9
イ 市来地域	5 0
(3) 署・各分団のホース保有状況	5 1
(4) 消防資機材の保有状況	5 2
(5) 消火薬剤等の保有状況	5 3
(6) 原子力防災資機材の保有状況	5 3
(7) 消防水利の状況（消防水利の基準に適合しないものも含む。）	
ア 串木野地域	5 4
イ 市来地域	5 5
(8) 消防無線の状況	
ア 消防本部	5 6
イ 消防団	5 7

VI 気 象

1 気象観測の状況	5 8
2 風向の状況	5 9
3 各地の降水量（防災テレメーターによる。）	5 9

VII 付 録

1 消防の沿革（串木野市消防本部）	6 0～6 5
2 歴代消防長（串木野市消防本部）	6 6
3 歴代消防団長	
(1) 旧串木野市	6 7
(2) 旧市来町	6 7
(3) いちき串木野市	6 7

I 総 括

面 積 1 1 2 . 3 0 km²

人 口 2 6 , 5 5 7 人

世 帯 数 1 3 , 0 5 4 世帯

(令和4年4月1日現在)

1 いちき串木野市の位置・概要

いちき串木野市は、薩摩半島の北西部にあり、西に白砂青松が続く吹上浜の海岸線を臨み、東に徐福伝説の霊峰冠嶽を控える、海・山・温泉などの自然と温暖な気候に恵まれた風光明媚な場所に位置し、また、3つの駅・2箇所の高速インターなど生活環境と利便性にも恵まれたまちである。

そして、縄文後期に人々が漁労や狩猟をして生活を営み、広い範囲にわたって人と物と情報の交流をしていたことを示す県指定文化財の市来貝塚や、徐福伝説とともに薩摩における山岳仏教の中心地として発展してきた冠嶽、さらに、江戸時代の陸上交通において九州筋の宿場として、また海上輸送の一中心地として物資等の集散地となり、宿場町と商業の地として栄える一方、金鉱業と遠洋まぐろ漁業のまちとして栄えてきたという、これまでに累々と積み重ねられた歴史と、そこから生まれた文化がある。

また、我がまちは、1865年薩摩藩英国留学生19名が近代日本の礎を築くため翔ばたい黎明の地でもあり、私たちがこの勇敢な先達の思いを胸に、今再びこの地から21世紀の夢を発信しているところである。

◎ 消防本部の位置 東経130度16分27秒

北緯31度42分30秒



2 市域の変遷

年 月 日	事 項	面 積 (km ²)	人 口			世 帯 数
			計	男	女	
明治 22. 4. 1	冠岳村、上名村、下名村、荒川村、羽島村の 5 ケ村が合併して串木野村となる。	79.60	—	—	—	
明治 22. 4. 1	湊村、大里村、川上村が合併して、西市来村となる。					
昭和 5. 4. 1	町制施行（西市来村⇒市来町）		8,290			
昭和 10. 4. 1	町制施行（串木野村⇒串木野町）	79.60	24,637	11,727	12,910	5,501
昭和 25.10. 1	市制施行（串木野町⇒串木野市）	79.60	33,884	16,483	17,401	7,182
平成 17.10.11	串木野市、市来町の 1 市 1 町で合併し、いちき串木野市となる。	112.02	33,087	15,516	17,571	13,601

3 消防の沿革

平成 17 年 10 月	<p>○市町村合併（串木野市と市来町）により新市「いちき串木野市」誕生</p> <p>○いちき串木野市消防本部・消防署・いちき分遣所発足</p> <p>○初代消防長 野田 豊 就任</p> <p>○職員 8 名（日置地区消防組合職員 3 名・旧串木野市役所職員 1 名・旧市来町役場職員 4 名）が転任、実員 45 名となる。いちき分遣所に 12 名を配置する。</p> <p>○串木野市消防団と市来町消防団は、合併により 1 団を形成し、「いちき串木野市消防団」となる。（団長 1 名、副団長 4 名、13 分団、定数 299 名）</p> <p>○救急 3 号車運用開始（国分地区消防組合より譲渡を受け）</p>
平成 18 年 3 月	<p>○梯子付消防自動車（日野）のオーバーホール （平成 17 年度電源立地地域対策等交付金事業）</p> <p>○中央・照島分団に消防ポンプ自動車（日野）を購入（更新） （平成 17 年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）</p>
4 月	<p>○第 2 代消防長 内屋照男 就任</p> <p>○消防職員 5 名採用（実員 48 名）</p>
12 月	<p>○高規格救急車（日産）を購入し、12 月 23 日運用開始（いちき分遣所配置換え） （平成 18 年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）</p>
平成 19 年 3 月	<p>○消防署に消防ポンプ自動車（日野・CD-I 型）を購入（更新） （平成 18 年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）</p>
11 月	<p>○中央分団に小型ポンプ（B-3 級）を購入（更新） （平成 19 年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）</p>
平成 20 年 3 月	<p>○川南分団に消防ポンプ自動車（日野）を購入（更新） （平成 19 年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）</p> <p>○羽島分団に小型動力ポンプ付積載車（日産）を購入（更新） （平成 19 年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）</p>
4 月	<p>○消防職員 2 名採用（消防吏員 1 名、その他職員 1 名）（実員 48 名）</p>
平成 21 年 1 月	<p>○川上分団に消防ポンプ自動車（日野）を購入（更新） （平成 20 年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）</p>
4 月	<p>○救急救助係の救助業務を警防係に移管し救急係とする。</p>

平成22年	1月	○日本消防協会から防災活動車（日産）の寄贈を受け、消防署に配置
	2月	○日置市消防本部から水槽付消防ポンプ自動車（日野）の譲渡を受け、消防署に配置
	3月	○旭分団に消防ポンプ自動車（日野）を購入（更新）
	4月	○消防職員2名採用（実員48名）※その他職員から消防吏員に転任（1名） ○第3代消防長 池田 豊 就任
平成23年	2月	○鹿児島県消防学校から救助工作車（三菱）の譲渡を受け、消防署に配置 ○消防署に水槽付消防ポンプ自動車（日野・水-II型）を購入（更新） （平成22年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
	4月	○消防職員1名採用（実員48名）
平成24年	2月	○消防署に高規格救急車（日産）を購入（更新） （平成23年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
	4月	○第4代消防長 深山龍朗 就任 ○消防職員1名採用（実員48名）
	12月	○荒川・冠岳分団に小型ポンプ搭載消防自動車（トヨタ）を購入（更新） （平成24年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
平成25年	1月	○消防署に高規格救急車（トヨタ）を購入（更新） （平成24年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
	4月	○消防職員1名市役所へ出向 市役所職員1名消防本部に事務職員として出向（実員48名）
	12月	○羽島分団に消防ポンプ自動車（日野）を購入（更新） （平成25年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
平成27年	2月	○本浦分団に消防ポンプ自動車（トヨタ）を購入（更新） （平成26年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業） ○中央分団に小型動力ポンプ付積載車（トヨタ）を購入（更新） （平成26年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
	4月	○第5代消防長 原菌照明 就任
平成28年	1月	○消防署に消防ポンプ自動車（日野）を購入（更新） （平成27年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
	2月	○照島分団に小型動力ポンプ付積載車（トヨタ）を購入（更新） （平成27年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
	3月	○消防救急デジタル無線の整備完了（施工業者：㈱九電工）
	4月	○消防職員1名採用（実員48名）
	11月	○消防署に救助工作車（日野）を購入（更新） （平成28年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
平成29年	4月	○第6代消防長 前屋満治 就任 ○消防職員2名採用（実員48名）
平成29年	12月	○中央仮設株式会社から広報車の寄贈を受け、消防署に配置
平成30年	2月	○消防署に高規格救急車（トヨタ）を購入（更新） ○消防署に消防指揮車（トヨタ）を購入（更新）
	4月	○消防職員1名市役所へ出向

平成31年 3月	○消防職員1名鹿児島県消防学校へ出向 ○消防職員2名採用（実員48名） ○消防団本部車（日産）を購入（更新） ○日本消防協会より、優良消防団として竿頭綬を授与される。
4月	○第7代消防長 若松勝司 就任 ○消防職員1名採用（実員47名）
令和2年 4月	○消防職員3名採用（実員48名）
11月	○ドローン運用アドバイザー研修に消防職員1名を派遣
令和3年 3月	○消防職員1名総務省消防庁からドローン運用アドバイザーに委嘱される ○高機能救命ボート一式を総務省消防庁から緊急消防援助隊資機材として無償貸与を受ける
4月	○第8代消防長 平石 剛 就任 ○消防職員2名採用（実員48名）
令和4年 4月	○第9代消防長 谷口浩貴 就任 ○消防職員4名採用（実員48名）

※串木野市消防本部・署の沿革については、Ⅶの付録に記載

4 歴代消防長

いちき串木野市消防本部

代	就 任 年 月	退 任 年 月	氏 名
初 代	平成17年10月	平成18年 3月	野 田 豊
第 2 代	平成18年 4月	平成22年 3月	内 屋 照 男
第 3 代	平成22年 4月	平成24年 3月	池 田 豊
第 4 代	平成24年 4月	平成27年 3月	深 山 龍 朗
第 5 代	平成27年 4月	平成29年 3月	原 藺 照 明
第 6 代	平成29年 4月	平成31年 3月	前 屋 満 治
第 7 代	平成31年 4月	令和3年 3月	若 松 勝 司
第 8 代	令和3年 4月	令和4年 3月	平 石 剛
第 9 代	令和4年 4月	現 在	谷 口 浩 貴

※串木野市消防本部の歴代消防長については、Ⅶの付録に記載

Ⅱ 総 務

常備消防 1 消防本部 1 消防署 1 分遣所

消防職員 48 名 (平均年齢 41.9 歳)

(令和4年4月1日現在)

消 防 団 1 消防団 12 分団

消防団員 252 名 (平均年齢 48.4 歳)

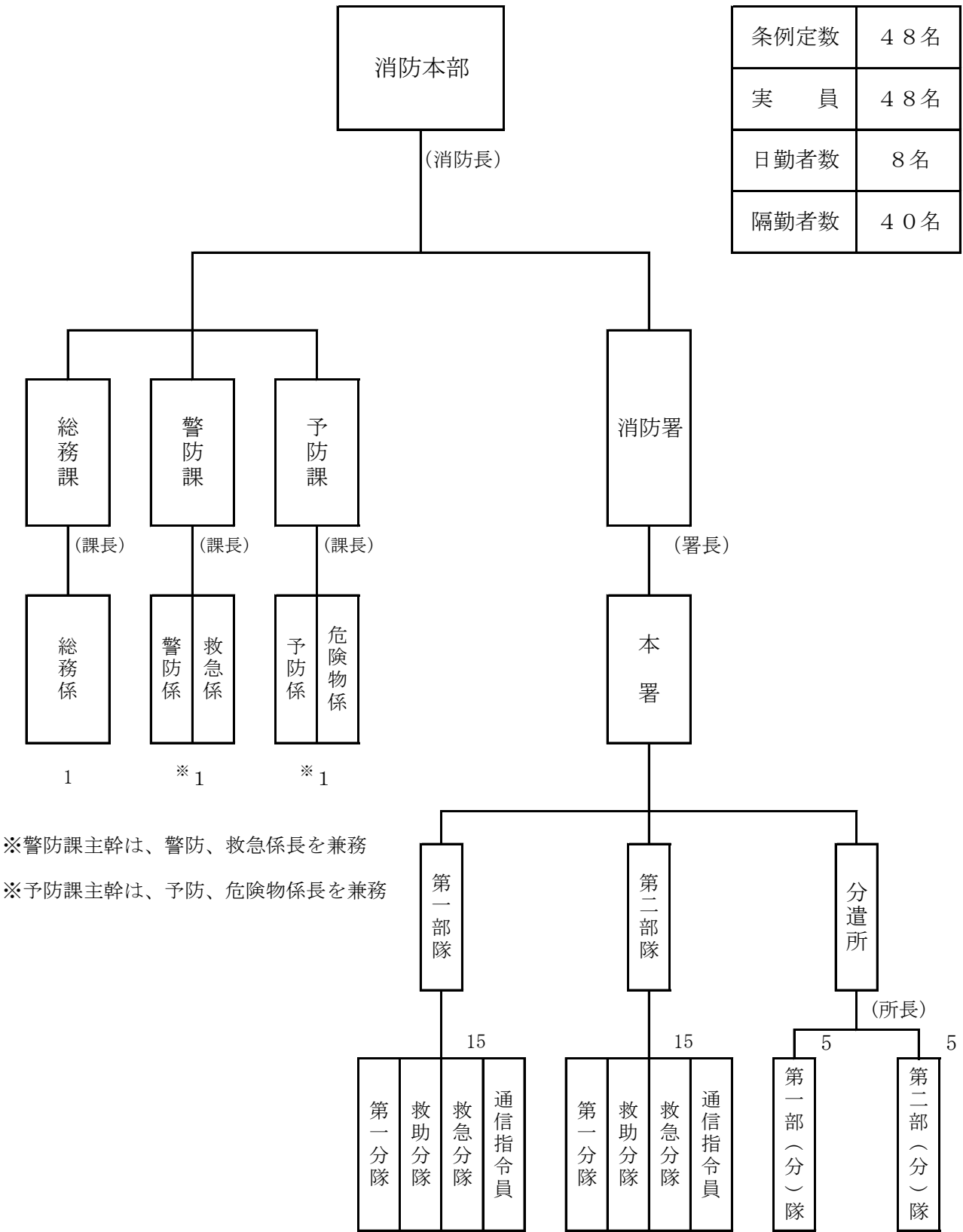
(令和4年4月1日現在)

令和3年度消防予算 789,638 千円

(住民1人当たり 29,734 円)

いちき串木野市消防本部・消防署の組織

令和4月年4月1日現在



注1：分遣所長は、分遣所第1部隊長を兼務する。

注2：分遣所は、第1分隊と救急分隊の乗換運用とする。

注3：署員にあつては、本部員を兼務し、本部事務を補完する。

2 消防本部・消防署・分遣所の事務分掌

＜消防本部＞

【総務課】

○ 総務係

- | | |
|------------------------------|--------------------------------|
| (1) 職員の人事及び組織に関すること。 | (12) 職場及び職員の安全管理並びに衛生管理に関すること。 |
| (2) 職員の服務に関すること。 | (13) 職員の教養、研修等の総括に関すること。 |
| (3) 職員の階級、任免、分限及び懲戒に関すること。 | (14) 情報公開に関すること。 |
| (4) 公務災害補償及び消防賞じゅつ金に関すること。 | (15) 消防年報及び消防統計に関すること。 |
| (5) 予算の編成及び執行に関すること。 | (16) 消防表彰に関すること。 |
| (6) 物品の購入、保管及び処分に関すること。 | (17) 職員及び団員の福利厚生に関すること。 |
| (7) 職員及び団員の被服及び貸与品に関すること。 | (18) 会議及び儀式に関すること。 |
| (8) 公有財産に関すること。 | (19) 消防協会及び消防学校に関すること。 |
| (9) 公印の保管に関すること。 | (20) 消防職員委員会に関すること。 |
| (10) 文書の受発、編さん及び保存に関すること。 | (21) 消防手数料等の収納に関すること。 |
| (11) 条例、規則、規程等の制定及び改廃に関すること。 | (22) 消防長会に関すること。 |
| | (23) 消防連合後援会に関すること。 |
| | (24) 消防団員互助会に関すること。 |
| | (25) 消防団事務に関すること。 |
| | (26) 他の係に属さないこと。 |

【予防課】

○ 予防係

- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| (1) 火災予防の企画に関すること。 | (6) 防火管理者の指導及び育成に関すること。 |
| (2) 火災予防査察に関すること。 | (7) 防火管理協会及び幼少年婦人防火委員会に関すること。 |
| (3) 建築同意事務に関すること。 | (8) その他火災予防に関すること。 |
| (4) 消防用設備等に係る検査及び指導に関すること。 | |
| (5) 火災の調査、統計、報告及び証明に関すること。 | |

○ 危険物係

- | | |
|-------------------------------|---|
| (1) 危険物施設の許認可及び検査並びに指導に関すること。 | (5) 石油コンビナート等特別防災区域の指導に関すること。 |
| (2) 危険物の仮貯蔵及び仮取扱いの承認に関すること。 | (6) 火薬類取締法（昭和 25 年法律第 149 号）の規定に基づく煙火の消費に関すること。 |
| (3) 危険物施設の予防査察に関すること。 | (7) 危険物安全協会に関すること。 |
| (4) 液化石油ガス販売事業の意見書に関すること。 | (8) その他危険物に関すること。 |

【警防課】

○ 警防係

- | | |
|--------------------------------------|------------------------------------|
| (1) 消防計画及び各種防災計画に関する
こと。 | (6) 消防施設、装備等の整備計画及び維持管理
に関すること。 |
| (2) 火災その他の災害等の警戒及び防御に関
すること。 | (7) 国庫補助金、石油交付金等に関すること。 |
| (3) 災害統計（火災、救急統計を除く。）及び
報告に関すること。 | (8) 気象、防災情報等の収集、伝達及び広報に
関すること。 |
| (4) 消防応援協定に関すること。 | (9) 消防無線及び防災行政無線に関すること。 |
| (5) 職員及び団員の警防関係教育訓練に関す
ること。 | (10) 消防用燃料の受払いに関すること。 |
| | (11) 救助及び潜水業務に関すること。 |
| | (12) その他警防に関すること。 |
-

○ 救急係

- | | |
|-------------------------|--------------------------------|
| (1) 救急業務に関すること。 | (5) 応急手当の普及啓発に関すること。 |
| (2) 救急の統計、報告及び証明に関すること。 | (6) 医師会、医療機関等との連絡調整に関す
ること。 |
| (3) 職員の救急教育訓練に関すること。 | (7) その他救急に関すること。 |
| (4) 救急資機材の維持管理に関すること。 | |
-

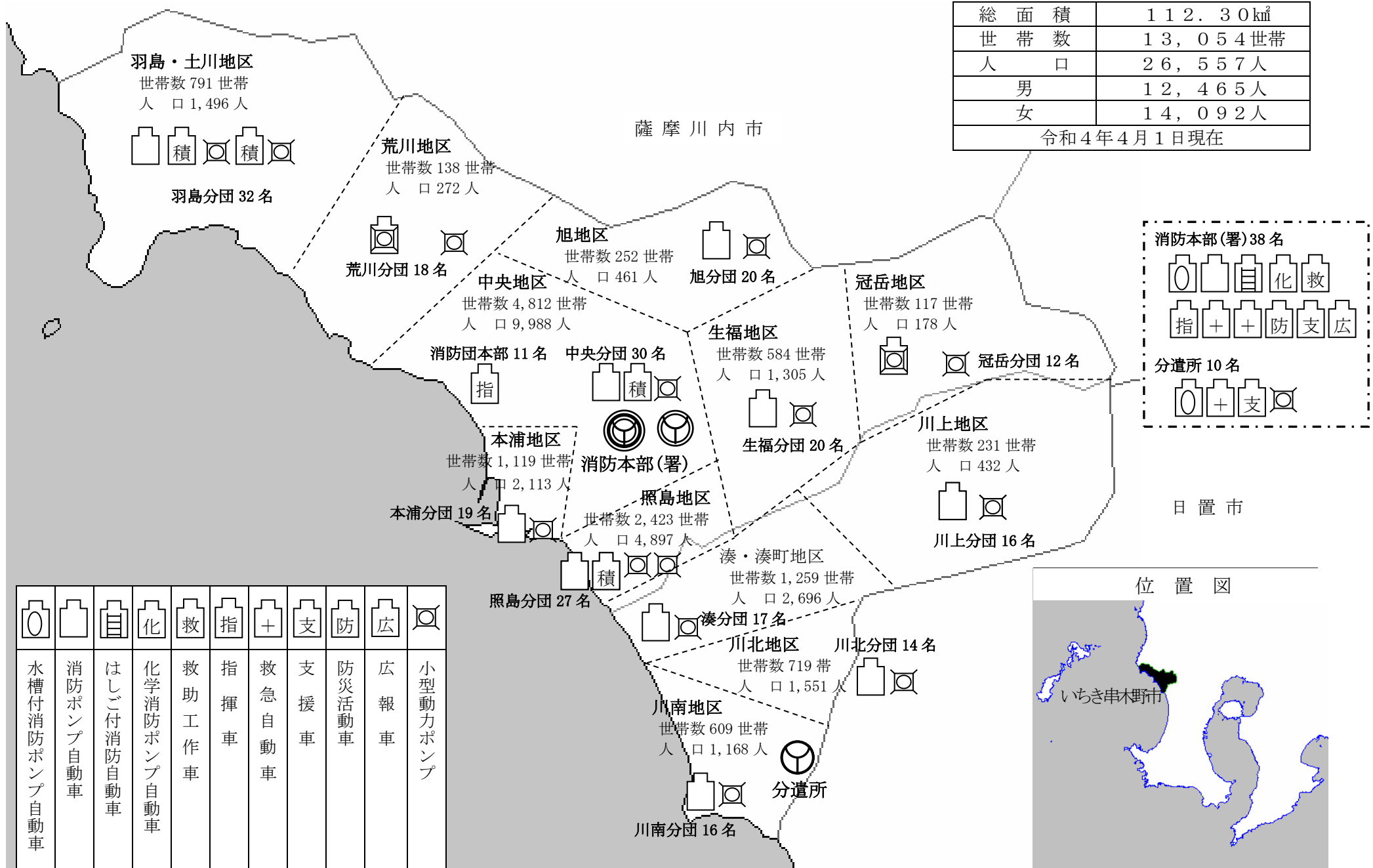
<消防署>

- | | |
|-----------------------------------|--------------------------------|
| (1) 消防通信及び受付事務に関すること。 | (9) 防火対象物の訓練指導に関すること。 |
| (2) 火災、救急、救助、風水害等の災害活動
に関すること。 | (10) 防火協力団体等の指導育成に関すること。 |
| (3) 火災その他の災害の警戒に関すること。 | (11) 気象、防災情報及び火災警報等に関するこ
と。 |
| (4) 署内の会議に関すること。 | (12) 応急手当の普及に関すること。 |
| (5) 署長会に関すること。 | (13) 空地及び空家の管理指導に関すること。 |
| (6) 防火広報、予防及び警防査察の実施に関
すること。 | (14) 住宅等の火災予防に関すること。 |
| (7) 署員及び団員の訓練に関すること。 | (15) 消防資機材の出納及び保管に関すること。 |
| (8) 消防水利及び地理調査に関すること。 | (16) その他消防業務の実施に関すること。 |
-

【分遣所】

- | | |
|-----------------------------------|-------------------------|
| (1) 受付事務に関すること。 | (6) 防火対象物の訓練指導に関すること。 |
| (2) 火災、救急、救助、風水害等の災害活動
に関すること。 | (7) 防火協力団体等の指導育成に関すること。 |
| (3) 火災その他の災害の警戒に関すること。 | (8) 応急手当の普及に関すること。 |
| (4) 防火広報、予防及び警防査察の実施に関
すること。 | (9) 空地及び空家の管理指導に関すること。 |
| (5) 消防水利及び地理調査に関すること。 | (10) 住宅等の火災予防に関すること。 |
| | (11) その他消防業務の実施に関すること。 |

3 いちき串木野市消防現勢分布図



4 消防庁舎等施設の状況

(1) 消防本部（署）・分遣所

所 管	所 在 地	構 造	敷地面積㎡	建 築 面 積 等 ㎡	建 築 年 月
消 防 本 部 消 防 署	昭和通 1 3 3 番地 1	鉄筋コンクリート造 2 階建	1,603.54	庁舎建築面積 618.80 庁舎延面積 1,020.76 訓練塔(5 階建)延 80.0	着工 S58. 7.27 竣工 S59. 3.20 増改築 H 4.10.22
い ち き 分 遣 所	大里 1 1 番地 2	鉄筋コンクリート造 2 階建	3,160.00	庁舎建築面積 301.62 庁舎延面積 414.32 訓練塔 25.00	完成 S57.9.28 増改築完成 H11.3.3 完成 H14.11.20

(2) 消 防 団

所 管	所 在 地	構 造	敷地面積㎡	建 築 面 積 等 ㎡	建 築 年 月
中 央 分 団	旭町 1 番地 2	鉄筋コンクリート造 2 階建	227.02	建 築 面 積 69.08 延 面 積 118.28	H 5. 3
本 浦 分 団	西浜町 1 番地 2	鉄筋コンクリート造 2 階建	165.29	建 築 面 積 52.79 延 面 積 86.00	H12. 3
照 島 分 団	東島平町 4 1 7 番地 1	鉄筋コンクリート造 2 階建	167.65	建 築 面 積 64.71 延 面 積 120.08	H 8. 3
羽 島 分 団	羽島 5,218 番地	鉄筋コンクリート造 2 階建	羽島コミュニ ニティセン ター敷地内	建 築 面 積 89.25 延 面 積 120.74	H 9. 3
	(土川班) 羽島 9,675 番地	鉄筋コンクリート造 平屋建		建 築 面 積 40.80 床 面 積 40.80	S54. 3
荒 川 分 団	荒川 2,450 番地 1	鉄筋コンクリート造 平屋建	小学校敷地内	建 築 面 積 72.00 床 面 積 72.00	H 6. 3
旭 分 団	金山 14,103 番地 15	鉄骨造平屋建	旭コミュニ ニティセン ター敷地内	建 築 面 積 72.00 床 面 積 72.00	H 7. 2
生 福 分 団	生福 6,660 番 1	鉄筋コンクリート造 2 階建	452.33	建 築 面 積 72.96 延 面 積 130.08	H17.3
冠 岳 分 団	冠岳 12,984 番地 2	鉄筋コンクリート造 2 階建	231.38	建 築 面 積 37.50 延 面 積 75.00	H 7. 3
資 材 倉 庫	東島平町 26 番地 (旧照島分団車庫)	鉄骨スレート造 平屋建	129.80	建 築 面 積 62.65 延 面 積 62.65	S 50.9
湊 分 団	湊町 1 丁目 252 番地	鉄筋コンクリート造 2 階建	1,128.79 のうち一部	建 築 面 積 81.52 延 面 積 136.80	S58.3
川 南 分 団	大里 705 番地 11	鉄骨造 H 型 2 階建	230.57	建 築 面 積 53.38 延 面 積 106.76	S61.12
川 北 分 団	大里 5,631 番地	鉄骨造 2 階建	595.31	建 築 面 積 53.535 延 面 積 107.07	H4.12
川 上 分 団	川上 1,171 番地	鉄骨造 H 型 2 階建	1,505.02 のうち一部	建 築 面 積 48.19 延 面 積 96.38	S62.11

5 令和3年度の主な行事

4月	2日	第1回消防幹部会議（防災センター会議室）
	7日	鹿児島県消防長会春季総会（西之表市 8日まで）
	9日	鹿児島県消防協会日置支部総会（防災センター会議室）
	27日	第75回全国消防長会九州支部総会（書面会議）
	27日	令和3年度鹿児島県消防関係者功労者表彰式及び消防大会（県民交流センター）
5月	9日	第2回消防幹部会議（市役所2階会議室）
	18日	北薩地区消防長連絡協議会（書面会議）
	28日	第43回鹿児島県消防救助技術指導会（県消防学校）
7月	2日	高機能救命ボート発隊式（串木野フィッシャリーナ）
	25日	消防団員幹部研修（防災センター会議室）
9月	8日	消防職員委員会（消防本部会議室）
10月	1日	第3回消防幹部会議（防災センター会議室）
	22日	鹿児島県石油コンビナート等総合防災訓練（串木野国家石油備蓄基地）
11月	9日	秋季火災予防運動（15日まで）
	10日	令和3年度災害対策専門研修「トップフォーラム in 鹿児島」（オンライン研修）
	26日	第4回消防幹部会議（消防本部会議室）
	28日	いちき串木野市総合防災訓練（市来湊町地区）
12月	17日	鹿児島県消防協会日置支部年末打合せ会
	28日	消防団年末夜警（市内全域：29日まで） ※市長等巡視は中止
1月	9日	令和4年消防出初式（多目的グラウンド・総合体育館）
2月	4日	第5回消防幹部会議（書面会議）
2月	11日	鹿児島県原子力防災訓練（羽島地区他）
3月	1日	春季火災予防運動（7日まで）
	9日	消防団車両交付式（生福分団：新生龍号・川北分団：新海竜）（本署）

【新型コロナウイルス感染症感染拡大により中止となった主な行事】

鹿児島県総合防災訓練（始良市）

いちき串木野市消防操法大会（いちき串木野市）

鹿児島県消防協会日置支部消防操法大会（いちき串木野市）

鹿児島県消防操法大会（日置市）

全国消防操法大会（千葉県市原市）

緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練（沖縄県）

6 消防予算

(1) 消防予算の内訳 (当初予算)

(単位：千円)

款・項・目	節	令和2年度	令和3年度	比較増減
9. 消 防 費		526,824	789,638	262,814
1. 消 防 費		526,824	789,638	262,814
1. 常備消防費		417,071	632,420	215,349
	給 料	190,357	191,911	1,554
	職 員 手 当 等	130,796	130,789	△ 7
	共 済 費	68,723	68,679	△ 44
	報 償 費	0	40	40
	旅 費	1,203	1,631	428
	需 用 費	11,975	11,835	△ 140
	役 務 費	4,251	4,128	△ 123
	委 託 料	2,320	924	△ 1,396
	使 用 料 及 び 賃 借 料	493	1,401	908
	原 材 料 費	34	33	△ 1
	備 品 購 入 費	4,500	216,860	212,360
	負担金、補助及び交付金	1,753	3,885	2,132
	補償、補填及び賠償金	1	1	0
	公 課 費	665	303	△ 362
2. 消防団費		63,618	116,222	52,604
	報 酬	13,165	13,165	0
	共 済 費	6,370	6,370	0
	災 害 補 償 費	100	100	0
	報 償 費	8,790	8,799	9
	旅 費	26,506	25,911	△ 595
	需 用 費	3,923	3,966	43
	役 務 費	948	994	46
	使 用 料 及 び 賃 借 料	323	72	△ 251
	原 材 料 費	9	9	0
	備 品 購 入 費	2,369	55,472	53,103
	負担金、補助及び交付金	844	845	1
	補償、補填及び賠償金	1	1	0
	公 課 費	270	518	248
3. 消防施設費		21,088	14,130	△ 6,958
	賃 金	0	0	0
	需 用 費	1,601	2,790	1,189
	役 務 費	17	248	231
	委 託 料	8,393	8,412	19
	使 用 料 及 び 賃 借 料	4	4	0
	工 事 請 負 費	8,000	0	△ 8,000
	原 材 料 費	14	14	0
	備 品 購 入 費	390	0	△ 390
	負担金、補助及び交付金	2,669	2,662	△ 7
4. 水 防 費		80	78	△ 2
5. 災害対策費		24,967	26,788	1,821

(2) 市総予算と消防予算（当初予算）

(単位：千円)

区 分 年度別	市 総 予 算	消 防 予 算	割 合 (%)	消 防 予 算 内 訳									
				常 備 消 防 費	割 合 (%)	消 防 団 費	割 合 (%)	消 防 施 設 費	割 合 (%)	水 防 費	割 合 (%)	災 害 対 策 費	割 合 (%)
H29	16,773,000	606,610	3.6	479,621	79.1	66,231	10.9	25,761	4.2	84	0.01	34,913	5.8
H30	15,850,000	554,135	3.5	417,261	75.3	73,460	13.3	11,253	2.0	82	0.01	52,079	9.4
R1	17,287,000	991,142	5.7	410,057	41.4	58,825	5.9	15,180	1.5	80	0.01	507,000	51.2
R2	16,010,000	526,824	3.3	417,071	79.2	63,618	12.1	21,088	4.0	80	0.02	24,967	4.7
R3	16,355,000	789,638	4.8	632,420	80.1	116,222	14.7	14,130	1.8	78	0.01	26,788	3.4

(3) 消防予算と人口・世帯数との比較（当初予算）

年 度	消 防 予 算 (円)	住民一人当たりの 消 防 費 (円)	一世帯当たりの 消 防 費 (円)	人 口 (人)
				世 帯 数
H29	606,610,000	21,233	45,436	28,569
				13,351
H30	554,135,000	19,649	41,718	28,202
				13,283
R1	991,142,000	35,610	74,803	27,833
				13,250
R2	526,824,000	19,208	39,811	27,427
				13,233
R3	789,638,000	29,734	60,490	26,557
				13,054

※人口及び世帯数は、各年度の4月1日現在

7 人事・教養

(1) 消防職員の配置状況

(R 4. 4. 1 現在)

階級	区分	実員	消 防 本 部							消 防 署			分 遣 所			
			消	次	課	総	予	危	救	警	署	第	第	分	第	第
			防			務	防	険	急	防		一	二	遣	一	二
級			長	長	長	係	係	係	係	係	長	隊	隊	所	隊	隊
司令長		1	1													
司 令		10			3	1	1		1		1	1	1	1		
司令補		14										5	6		1	2
士 長		11										4	4		1	2
副士長		1										1				
消防士		11										4	4		2	1
その他		0														
合 計		48	1	0	3	1	1		1		1	15	15	5		5

注 ※警防課主幹は、警防、救急係長を兼務、予防課主幹は、予防、危険物係長を兼務
分遣所長は、第1部隊長を兼務

(2) 消防職員の階級別年齢構成

(R 4. 4. 1 現在)

階級	年齢	20歳未満	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	合計	平均年齢
司令長										1	1	59.0
司令									5	5	10	54.6
司令補								7	7		14	50.0
士長					3	2	4	2			11	39.0
副士長				1							1	26.0
消防士		1	8	1	1						11	23.0
その他												
合計		1	8	2	4	2	4	9	12	6	48	41.9

(3) 消防職員の階級別勤続年数構成

(R 4. 4. 1 現在)

勤続年数 階 級	5 年 未 満	5 年 ～ 9 年	1 0 年 ～ 1 4 年	1 5 年 ～ 1 9 年	2 0 年 ～ 2 4 年	2 5 年 ～ 2 9 年	3 0 年 ～ 3 4 年	3 5 年 以 上	合 計
司令長								1	1
司 令						2	3	5	1 0
司令補				1		7	6		1 4
士 長			4	5	1	1			1 1
副士長	1								1
消防士	9	2							1 1
その他									
合 計	1 0	2	4	6	1	1 0	9	6	4 8

(4) 消防職員研修状況

(R 4. 4. 1 現在)

年 度 別 学 科 別		平成28年 度以前の 実績	平 成 29年度	平 成 30年度	令 和 元年度	令 和 2年度	令 和 3年度	計
消防 大学 校	救 助 科	1						1
	警 防 科	1			※ 1			1
	火 災 調 査 講 習 会	2						2
	新任消防長・学校長科	1						1
消 防 学 校	初 任 科	5 1	2	2	1	2	2	6 0
	救 急 I 課 程	2 1						2 1
	救 急 II 課 程	1 4						1 4
	救 急 標 準 課 程	9						9
	救 急 科	2 0	1	2	1	2	2	2 8
	気 管 挿 管 講 習	8						8
	救 助 科	2 4	1	1	1	1	1	2 9
	警 防 科	3						3
	予 防 科 (課 程)	7						7
	査 察 課 程	1						1
	予 防 査 察 科 (課 程)	5	1	1	1	1	1	1 0
	火 災 調 査 科 (課 程)	1 1	1	1	1	1	1	1 6
	初 級 幹 部 科	6		1		1		8
	中 級 幹 部 科	5	1		1		1	8
	無 線 科	1						1
	職 員 指 導 員 科	2						2
九 州 研 修 所	梯 子 車 研 修	4						4
	気 管 挿 管 追 加 講 習	8						8
	処 置 拡 大 追 加 講 習	1	1	1	1			4
	救 急 救 命 士 研 修	1 5	1	1				1 7
九 州 救 急 救 命 研 修 所	薬 剤 投 与 追 加 講 習	8						8
	指 導 救 命 士 養 成 研 修	2	1					3
	処 置 拡 大 追 加 講 習	1	1	1				3
	薬 剤 投 与 病 院 実 習							
開 海 発 洋 機 研 究 構 成	気 管 挿 管 病 院 実 習	1 2	1	1	1			1 5
	潜 水 業 務 管 理 研 修	2						2
	潜 水 技 術 特 別 研 修	1						1
	潜 水 技 術 指 導 研 修	1						1
消防救急緊急自動車運転技能者研修		1						1
九州地区(警防/予防)実務研修		4	1	1	1			7
合 計		2 5 3	1 3	1 3	9	8	8	3 0 4

※にあつては、鹿児島県消防学校へ出向中に派遣されたもの

8 消防団

(1) 消防分団所轄区域、定員及び幹部名

(R 4. 4. 1 現在)

分団 区分	団 本 部	本 部 付 団 員	中 央	本 浦	照 島	羽 島	荒 川	旭 地	生 福	冠 岳	湊 町	川 南	川 北	川 上	合 計
団 長	1														1
副団長	2														2
分団長			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
副分団長			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
部 長			4	2	3	4	2	2	3	2	2	2	2	2	30
班 長		2	6	4	5	6	4	4	5	4	4	4	4	4	56
団 員		6	18	11	17	20	10	12	10	4	9	8	6	8	139
実 員	3	8	30	19	27	32	18	20	20	12	17	16	14	16	252
定 員	3	10	35	21	27	32	20	20	25	20	22	21	21	20	297
所 轄 区 域			串 木 野 地 区 (本浦分団区域を除く。)	本 浦 地 区	照 島 地 区	羽 島 ・ 土 川 地 区	荒 川 地 区	旭 地 区	生 福 地 区	冠 岳 地 区	湊 ・ 湊 町 地 区	大 里 の う ち 川 南 地 区	大 里 の う ち 川 北 地 区	川 上 地 区	
世帯数			4,812	1,119	2,423	791	138	252	584	117	1,259	609	719	231	13,054
人 口			9,988	2,113	4,897	1,496	272	461	1,305	178	2,696	1,168	1,551	432	26,557
団 長	副団長		分 団 長												
西 村 博 孝	西 石 ノ 川 園 一 隆 仁	(女性消防団員)	西 田 憲 一	白 石 英 巳	石 野 潤 一	福 永 茂 幸	鮫 島 和 光	竹 之 下 直 正	大 六 野 弘 行	瀬 戸 口 健 治	前 田 浩 幸	内 匠 康 義	富 永 豊	田 渕 幸 広	

(2) 消防団員の階級別勤続年数構成

(R 4. 4. 1 現在)

階級 \ 勤務年数	5年未満	5年～9年	10年～14年	15年～19年	20年～24年	25年～29年	30年～34年	35年以上	合計
団 長						1			1
副 団 長								2	2
分 団 長		1				2	4	5	12
副分団長				1	2	2	3	4	12
部 長			2	3	5	11	7	2	30
班 長		4	14	14	14	7	3		56
団 員	59	37	25	7	9		1	1	139
合 計	59	42	41	25	30	23	18	14	252

(3) 消防団員の階級別年齢構成

(R 4. 4. 1 現在)

階級 \ 年 齢	24歳以下	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳以上	合計	平均年齢
団 長									1		1	63.0
副 団 長									1	1	1	66.5
分 団 長								3	4	5	12	64.4
副分団長							2	1	4	5	12	63.0
部 長				1		6	4	5	5	9	30	57.9
班 長		1	1	4	7	13	8	6	6	10	56	52.0
団 員	10	9	14	27	25	21	16	8	5	4	139	42.0
合 計	10	10	15	32	32	40	30	23	26	34	252	48.4

(4) 消防団員出場状況

(R 3 年度)

分団別 出場区分			団本部		中 央	本 浦	照 島	羽 島	荒 川	旭	生 福	冠 岳	湊	川 南	川 北	川 上	合 計
			女性 団員														
火 災 等 災 害	火 災	回 数	4	0	3	3	3	0	0	0	3	2	1	1	1	2	23
		人 員	10	0	51	26	37	0	0	0	38	10	13	13	12	19	229
	風水害等 の災害	回 数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		人 員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小 計	回 数	4	0	3	3	3	0	0	0	3	2	1	1	1	2	23
		人員	10	0	51	26	37	0	0	0	38	10	13	13	12	19	229
演 習 訓 練 等	演習訓練	回 数	3	0	16	16	15	17	15	15	15	15	16	16	15	15	189
		人 員	12	0	124	97	107	147	91	95	104	84	106	100	90	93	1,250
	その他	回 数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		人 員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小 計	回 数	3	0	16	16	15	17	15	15	15	15	16	16	15	15	189
		人 員	12	0	124	97	107	147	91	95	104	84	106	100	90	93	1,250
そ の 他	広報指導	回 数	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
		人 員	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16
	警防調査等	回 数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		人 員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	特別警戒	回 数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		人 員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	捜 索	回 数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		人 員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	回 数	15	5	11	9	14	12	10	11	12	11	11	11	12	11	155
		人 員	41	23	73	55	81	102	43	58	69	40	60	55	53	51	804
	小 計	回 数	15	13	11	9	14	12	10	11	12	11	11	11	12	11	163
		人 員	41	39	73	55	81	102	43	58	69	40	60	55	53	51	820
合 計	延回数		22	13	30	28	32	29	25	26	30	28	28	28	28	28	375
	延人員		63	39	248	178	225	249	134	153	211	134	179	168	155	163	2,299

(5) 消防団員の報酬等

(単位：円)

階級 区分		団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団員
報 酬	年 報 酬	143,200	92,500	84,400	46,700	42,700	41,200	39,700
	技 術 報 酬	消防ポンプ車等の機関員 年額15,000 小型動力ポンプ機関員 年額10,000						
費 用 弁 償	災 害・訓 練 等 出 動 手 当	1 回 1 人 5,100						

9 いちき串木野市消防連合後援会

(R 4. 4. 1 現在)

後 援 会 (部) 名	会 (部) 長	役 職 名
中 央 分 団 後 援 会	鯨 島 巧	
本 浦 分 団 後 援 会	大 里 章 裕	副 会 長
照 島 分 団 後 援 会	中 馬 貞 治	
れいめい羽島協議会消防後援部	新 村 政 廣	
荒川地区まちづくり協議会消防後援部	竹 之 内 茂 美	
旭地区まちづくり協議会消防後援部	平 田 隆 一	
生 福 分 団 後 援 会	木 場 與 一 郎	会 長
冠岳地区まちづくり協議会消防後援部	川 畑 千 秋	監 事
湊地区まちづくり協議会消防後援会	福ヶ野 和 男	副 会 長
川 南 分 団 後 援 会	濱 田 米 夫	監 事
川 北 分 団 後 援 会	藤 田 和 生	
川 上 分 団 後 援 会	田 渕 明	

10 表 彰 (令和3年度)

(1) 消防庁長官永年勤続功労章
(羽島) 大 崎 勝 夫

(2) 日本消防協会会長表彰

○ 精績章

(川南) 内 匠 康 義

○ 勤続章 (30年以上)

(羽島) 小 嶋 正 幸

(川上) 藤 脇 重 晴

(3) 鹿児島県知事表彰

○ 10年勤続章

(荒川) 星 原 達 也

(川北) 西久保 弘 樹

(中央) 久 木 山 竜 也

(本浦) 黒 岩 雅 之

(本浦) 浅 尾 大 介

(羽島) 梶 尚 三

(旭) 高 原 和 敏

(川南) 本 鍋 田 和 孝

(4) 鹿児島県消防協会総裁表彰

○ 功績章 (20年以上)

(本浦) 竹 中 昭 彦

(照島) 榎 木 成 徳

(照島) 海 田 健 一

(羽島) 川 畑 博 一

(川南) 徳 重 庄 作

(羽島) 川 口 勝 志

(荒川) 古 園 辰 也

○ 精績章 (15年以上)

(生福) 井 上 拓 也

(中央) 横 路 心

(中央) 田 代 聡

(本浦) 森 田 裕 司

(照島) 西 田 繁

(川北) 武 田 正 人

(川上) 逆 瀬 川 亨

(照島) 小 屋 友 博

(5) 鹿児島県消防協会日置支部長表彰

○ 15年勤続章

(荒川) 永 和 則

(川北) 池 田 善 之

(本浦) 中 村 正 也

(川北) 新 村 真

(川上) 宇 都 口 和 美

(羽島) 楮 山 貴 宏

(川上) 有 川 享

(川上) 鹿 丸 貢

(川上) 田 中 稔

(6) いちき串木野市長表彰

○ 10年勤続章

(荒川) 山 下 勉

(荒川) 星 原 達 也

(本部付) 野 元 範 子

(本部付) 駒 壽 みゆき

(本部付) 馬 場 添 やよみ

(本部付) 坂 元 孝 子

(本部付) 船 蔵 美 奈 子

(本浦) 濱 走 拓 矢

(本浦) 浅 尾 大 介

(照島) 徳 永 照 彦

(羽島) 黒 木 耕 二

(旭) 西 川 飛 鳥

(7) いちき串木野市長感謝状

○ 20年以上勤続団員の奥様

(本浦) 竹 中 裕 美

(照島) 海 田 真 由 美

(羽島) 川 畑 登 志 子

(羽島) 川 口 直 美

(荒川) 古 園 千 春

Ⅲ 予 防 ・ 危 険 物

防火対象物数（法第 1 7 条） 1, 1 2 0

危険物施設数（法第 1 1 条） 1 2 6

1 防火対象物の状況

多数の人が利用する建築物は、火災が発生した場合人命危険が大きいので、一定規模以上の建築物については、防火管理者の選任及び消火設備、警報設備、避難設備などの消防用設備等の設置と維持管理が消防法で義務付けられている。
(R4. 3. 31現在)

対象物別			区 分	対象物数 (150㎡以上)	防火管理者 が必要な対 象物数 (150㎡未満を 含む)	定期点検が 必要な対象 物数
1 項	イ	劇場、映画館、演芸場、観覧場		2	2	2
	ロ	公会堂、集会場		2 1	1 9	1 0
2 項	イ	キャバレー、カフェー、ナイトクラブの類				
	ロ	遊技場、ダンスホール		6	2	4
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等				
	ニ	カラオケボックス等		1	1	
3 項	イ	待合、料理店の類				
	ロ	飲食店		1 9	1 9	
4 項		百貨店、マーケット、展示場の類		4 2	2 8	6
5 項	イ	旅館、ホテル、宿泊所の類		7	3	1
	ロ	寄宿舎、下宿、共同住宅		1 9 5	1 1	
6 項	イ	(1) 診療科名中に特定診療科目を有し、診療病床又は一般病床を有する病院類		2	2	
		(2) 診療科名中に特定診療科目を有し、四人以上の患者を入院させるための施設を有する病院類		7	5	
		(3) (1)、(2)以外の病院又は入所施設を有する助産所		9	6	
		(4) 患者を入院させるための施設を有しない診療所又は入所施設を有しない助産所		1 2		
	ロ	(1) 老人短期入所施設、養護老人ホーム類		1 5	1 3	1
		(2) 救護施設				
		(3) 乳児院				
		(4) 障害児入所施設				
		(5) 障害者支援施設		3	3	
	ハ	(1) 老人デイサービスセンター類		8	1	
		(2) 更生施設				
		(3) 保育所、幼保連携認定こども園類		1 4	6	
		(4) 児童発達支援センター類		1	1	
		(5) 障害者支援施設		8	2	
	ニ	幼稚園、特別支援学校		1 8	4	1
7 項		小・中・高・大学各種学校の類		8 6	1 6	
8 項		図書館、博物館、美術館の類		3	3	
9 項	イ	公衆浴場のうち蒸気浴場、熱気浴場の類				
	ロ	上記以外の公衆浴場		2	1	
10 項		車両の停車場又は船舶、航空機の発着場		1		
11 項		神社、寺院、教会の類		8	3	
12 項	イ	工場、作業場		1 7 1	4	
	ロ	映画スタジオ、テレビスタジオ				
13 項	イ	自動車車庫、駐車場		2 8		
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫				
14 項		倉庫		1 1 7		
15 項		前各項に該当しない事業場		1 7 2	1 9	
16 項	イ	特定防火対象物が存する複合用途対象物		6 8	4 7	6
	ロ	上記以外の複合用途対象物		7 3	9	
16の2 項		地下街				
16の3 項		準地下街				
17 項		重要文化財の類				
18 項		延長50m以上のアーケード		1		
合 計				1, 1 2 0	2 3 0	3 1

2 防火対象物階層別状況（4階以上・棟数）

（R4.3.31現在）

令 別 表 第 一 区 分		4 階		5 階		6 階		1 0 階		合 計
4 項	百貨店、マーケット、展示場の類	1								1
		湊 町	1							
5 項	ロ 共同住宅・寄宿舍等	39		15						54
		上 名	1	中 央	1					
		大 原	3	照 島	13					
		中 央	8	湊 町	1					
		本 浦	5							
		照 島	9							
		湊 町	4							
		湊	4							
6 項	イ 病 院・診療所等	3								3
		照 島	2							
		湊 町	1							
	ロ 主として要介護状態にある者 又は重度障害等が入所する施設	1		1						2
川 南		1	中 央	1						
7 項	小学校・中学校・高等学校・大学、 各種学校等	4		2						6
		照 島	4	照 島	2					
12項	イ 工場又は作業場	1								1
		荒 川	1							
14項	倉 庫	1								1
		本 浦	1							
15項	前各項に該当しない事業場 (事務所等)	4								4
		中 央	1							
		本 浦	2							
		羽 島	1							
16項	イ 複合用途防火対象物 (特定用途部分を含むもの)	9		1		1		1		12
		中 央	9	中 央	1	中 央	1	中 央	1	
	ロ 複合用途防火対象物 (特定用途部分を含まないもの)	4								4
		中 央	4							
合 計		67		19		1		1		88
地 区 別	上 名	1								1
	大 原	3								3
	中 央	22		3		1		1		27
	本 浦	8								8
	照 島	15		15						30
	羽 島	1								1
	荒 川	1								1
	川 南	1								1
	川 北	5								5
	湊	4								4
	湊 町	6		1						7

3 建築同意事務等処理状況

(1) 建築同意状況

(R 3 年度)

工事種別 \ 対象物別	三項口	五項口	六項口(二)	一一	一二項イ	一三項イ	一四	一五	一六項イ	専用住宅	その他	合計
新 築	1	5		1	3	1	6	5	1	4		27
増 築			1		1					2		4
修 繕					1							1
その他												
合 計	1	5	1	1	5	1	6	5	1	6		32

(2) 専用住宅建築確認通知状況

(R 3 年度)

月 別	4	5	6	7	8	9	1 0	1 1	1 2	1	2	3	合 計
件 数	8	8	8	1 2	7	9	1 4	6	7	4		9	9 2

4 消防用設備等設置検査実施状況

(R 3 年度)

工事種別 \ 対象物別	五項イ	五項口	六項イ(二)	六項イ(三)	六項口(一)	六項ハ(五)	一一項	一二項イ	一五	一六項イ	合計
消 火 器	1	3	1					4	2	2	13
ス プ リ ン ク ラ ー 設 備			1								1
自 動 火 災 報 知 設 備	1		1	1	1			3		2	9
消 防 機 関 へ 通 報 す る 火 災 報 知 設 備		1			1					1	3
屋 内 消 火 栓 設 備								2			2
避 難 器 具	2	3									5
非 常 警 報 設 備							1		1		2
誘 導 灯	1		1			1		1	1	3	8
誘 導 標 識		2					1	2	1		6
	5	9	4	1	2	1	2	12	5	8	49

5 消防法関係届出状況

(R 3 年度)

区分 対象物別		防火管理者 選任届	防火管理者 解任届	消防計画 作成(変更)届	工事整備対象 設備等着工届	消防用設備等 (特殊消防用設備等) 設置届	消防用設備等 点検結果報告
1 項	イ						2
	ロ	6	6	6			21
2 項	イ						
	ロ						6
	ハ						
	ニ						
3 項	イ						
	ロ	3	2	3			22
4 項		8	7	6			38
5 項	イ	1	1	1	1	7	6
	ロ	1	1	1	3	12	28
6 項	イ	(1)				1	3
		(2)	3	3	3	2	4
		(3)	1	1	1	2	10
		(4)					13
	ロ	(1)	2	2	2	1	3
		(2)					
		(3)					
		(4)					
		(5)		1			4
	ハ	(1)					8
		(2)					
		(3)	2	2	2		13
		(4)		1			2
		(5)				2	7
	ニ	1	1	1		1	17
7 項		6	6	5	2	1	19
8 項							1
9 項	イ						
	ロ						
10 項							
11 項				1		3	3
12 項	イ	2	2	2	12	15	44
	ロ						
13 項	イ						4
	ロ						
14 項						3	29
15 項		3	3	3		5	28
16 項	イ	6	6	7	4	9	38
	ロ					1	6
16の2 項							
16の3 項							
17 項							
18 項							
19 項							
20 項							
合 計		45	43	46	26	69	390

6 火災予防条例関係届出状況

(R 3年度)

種別 \ 月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
使用開始届け	1		2		1		2	2	2	2	2	3	17
炉													
厨房設備													
温風暖房機													
ボイラー	1			2	1			1				1	6
乾燥設備		1			1								2
サウナ設備													
内燃ヒートポンプ													
火花を生ずる設備													
放電加工機													
変電設備		2				3	1	2			1		9
燃料電池発電													
発電設備		1								1			2
蓄電池設備													
ネオン管													
水素ガス													
改修計画	1	9	11	8	7	4	1	15	14	9	13	20	112
緩和願い								1					1
火災と紛らわしい		2		1					7	5	1		16
煙火打上げ・仕掛け				1	1	1		1			1		5
催物開催													
水道断・減水							1						1
道路工事	6	10	14	13	12	10	12	16	13	8	6	5	125
露店等の開設										1		2	3
指定洞道													
少危・指定可燃貯蔵取扱い	1											2	3
禁止・危険行為解除承認							1						1
指定催し													
火災予防上必要な計画													
少危・指定可燃廃止届													
煙突ストープ清掃業													
その他条例関係届出					1		1						2
	10	25	27	25	24	18	19	38	36	26	24	33	305

7 防火啓発状況

(R 3 年度)

方 法	対 象	回 数	備 考
広 報 車	市 内 全 域	2	春・秋火災予防運動期間中 又は火災気象通報発表時 等の防火上警戒を要する 時に実施
防 災 行 政 無 線	市 内 全 域	7	
広報くしきの(おしらせ版)	市 内 全 家 庭	5	
防 火 ポ ス タ ー 配 布	市 内 各 事 業 所 等	8	
避 難 訓 練 等 指 導	各公民館・各事業所等	2 6 9	各公民館、各事業所等から の依頼で実施
防 火 ・ 防 災 座 談 会	各公民館・各事業所等	2	各種会合時、又は公民館等 からの依頼で実施

8 危険物施設の状況

(R 4 . 3 . 3 1 現在)

施設区分 倍数別	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所				合 計
		屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	簡 易 タ ン ク 貯 蔵 所	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	給 油 取 扱 所	販 売 取 扱 所	移 送 取 扱 所	一 般 取 扱 所	
5 倍以下		5	5		10		15					7	42
5 倍を越え 10 倍以下			2	1	5		1	1	5			8	23
10 倍を越え 50 倍以下	1	1	17		3				10			5	37
50 倍を越え 100 倍以下		1	2						5				8
100 倍を越え 150 倍以下									2				2
150 倍を越え 200 倍以下									3				3
200 倍を越え 1000 倍以下			2						1		1		4
1000 倍を越えるもの			6								1		7
合 計	1	7	34	1	18		16	1	26		2	20	126

9 危険物関係許可・検査処理状況

(R 3年度)

施設区分 種 別	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所				計
		屋 内	屋 外 タン ク	屋 内 タン ク	地 下 タン ク	簡 易 タン ク	移 動 タン ク	屋 外	給 油	販 売	移 送	一 般	
設 置 許 可									1				1
変 更 許 可			5						1		1		7
完 成 検 査			5						1		1		7
水 圧 ・ 水 張 検 査													
仮使用（貯蔵取扱）承認									1				1
岩盤タンク定期保安検査													
計			11						4		2		1 6

10 危険物施設の立入検査状況

(R 3年度)

施 設 別	実 施 施 設 数	立 入 検 査 延 回 数
製 造 所	1	1
屋 内 貯 蔵 所	4	4
屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	2 4	2 4
屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	1	1
地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	1 7	1 7
簡 易 タ ン ク 貯 蔵 所		
移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	1 7	1 7
屋 外 貯 蔵 所		
給 油 取 扱 所	2 7	2 7
販 売 取 扱 所		
移 送 取 扱 所	2	2
一 般 取 扱 所	1 6	1 6
計	1 0 9	1 0 9
少量危険物貯蔵取扱所	5 3	5 3

11 液化石油ガス等の保安指導状況

(1) 届出の義務

消防法第9条の3では、火災予防又は消火活動に重大な支障を生ずるおそれのある圧縮アセチレンガス、液化石油ガスその他の物質（毒物、劇物等）を政令で指定し、一定以上の貯蔵又は取扱いをする場合、消防長等に届け出ることを義務づけている。

(2) 消防機関の対応

この届出に対し、消防機関は先ず、火災予防措置として査察指導を行い、火災発生の未然防止を図り、次に万一の火災発生時において、これらの物質から発生する特異かつ重大な危険が付近住民に波及することを防止し、かつ消火活動にあたる消防職員に対する危害を防止するための対策に役立てることを狙いとする。

(3) 液化石油ガス施設等の現況

(R 4 . 3 . 3 1 現在)

物 質	数 量	貯 蔵 ・ 取 扱 施 設 数	備 考
液 化 石 油 ガ ス	3 0 0 kg 以上	2 3 8	
圧縮アセチレンガス	4 0 kg 以上	2	
シアン化ナトリウム	3 0 kg 以上	1	毒 物
硫 酸	2 0 0 kg 以上	2	劇 物
塩 素	2 0 0 kg 以上	1	劇 物

12 串木野国家石油備蓄基地の概要及び現況

(1) 概 要

位 置：いちき串木野市西薩町1番地及び北部丘陵地

備 蓄 方 式：常圧貯蔵横穴水封固定水床式

面 積：貯油施設地区26ha、地上施設地区5ha

貯蔵許可数量：1,740,874.4kL（約175万kL）

類 別・品 名：第4類 第1石油類（原油）

地 下 貯 油 槽（岩盤タンクに係る屋外タンク貯蔵所）

形 状：卵型（高さ 22m × 幅 18m × 長さ 555m）10基

水封トンネル：3本

地上荷役施設：操油設備・用役設備・電気計装設備・公害防止設備・安全防災設備・管理施設等

海上荷役設備：10万DWT級一点係留浮標式係留設備1基・海底原油配管2,300m

危険物の移送量：受け入れ時 120,000kL/日

払い出し時 96,000kL/日

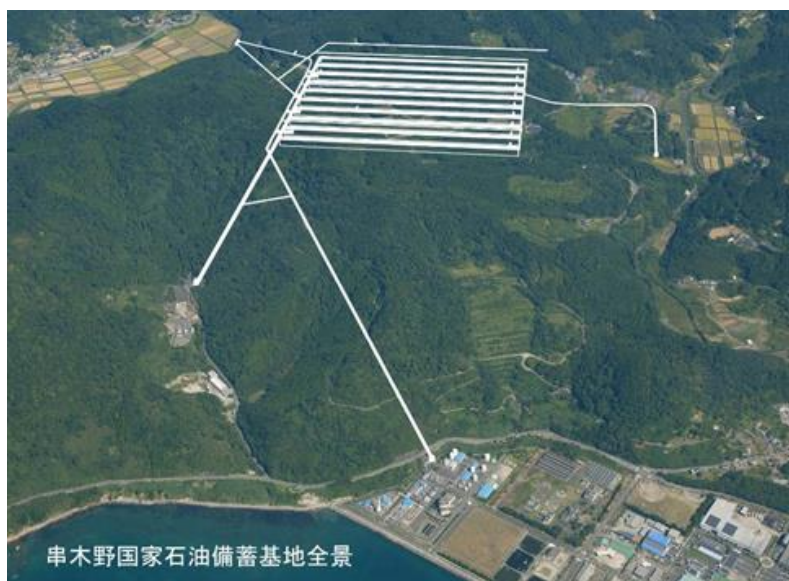
他の危険物施設：屋外タンク貯蔵所 7 地下タンク貯蔵所 1

屋内貯蔵所 1 一般取扱所 5 移送取扱所 2

石油コンビナート等特別防災区域指定：平成4年8月28日

串木野基地起工：昭和62年3月31日

備蓄原油総量：約168万kL



(2) 現 況

ア 労働無災害時間記録を継続中

令和4年3月31日 358.9万時間

イ 令和3年度 消防立入検査

下記の定期消防立入検査において書類審査、現地審査共に、問題のない事が確認されました。

・特定防災区域内巡回パトロール及び危険物施設立入検査

(5/27 地上部, 11/30 地下水位, 地下部, 2/25 書類)

・岩盤関係定期消防立入検査 (5/27, 11/30, 2/22)

ウ 鹿児島県石油コンビナート等総合防災訓練の実施

令和3年10月22日（金）鹿児島県石油コンビナート等防災計画に基づく、総合防災訓練を実施しました。新型コロナウイルス感染防止の観点より参加人数の制限を行いつつ、関係機関と相互協力のもと、防災活動の円滑な実施と連携の強化という所期の目的を確認しました。

訓練参加者

鹿児島県、いちき串木野市、いちき串木野市消防本部、いちき串木野警察署、串木野海上保安部、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構、日本地下石油備蓄株式会社
関係9機関。訓練車両10台、船舶7隻、総勢約120名。

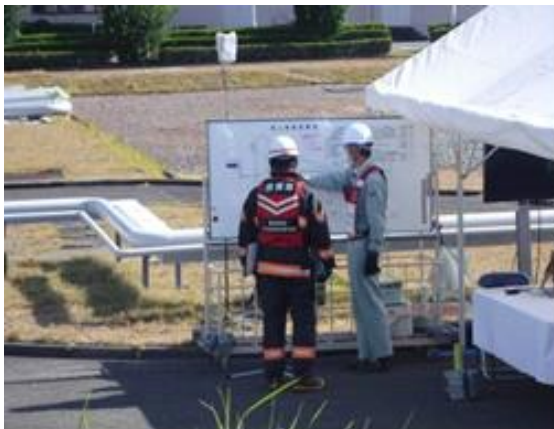
訓練想定

- (1) 令和3年10月22日 10時00分、タンカーからの原油揚荷作業中に甕島列島東方沖を震源とする震度6弱の地震が発生。いちき串木野市で大津波警報が発令され作業中の設備を緊急停止し緊急避難。その際に行方不明者が発生。
- (2) 陸上ではエアーセパレーター101B上流配管フランジ部より原油漏洩、原油受払い設備エリア内に流出。また海上では海底配管より原油漏洩。
- (3) 漏れた原油に何らかの原因で着火して火災が発生。

訓練項目

- (1) 緊急地震速報、緊急通報・異常処置訓練
- (2) 自衛防災組織防災本部と現場指揮所の指示・命令等の情報伝達・機能、確認
- (3) いちき串木野市消防本部入場、現場指揮本部設置及び関係機関と現地調整会議
- (4) 消防ドローン・救助工作車による不明者捜索及び救出/救護/搬送訓練
- (5) 土のう構築、オイルフェンス展張、交通規制、災害情報広報
- (6) 初期消火訓練及び消火延焼防止訓練（陸上・海上一斉放水）

訓練風景



現地指揮本部設置



救出・救護訓練



オイルフェンス展張訓練

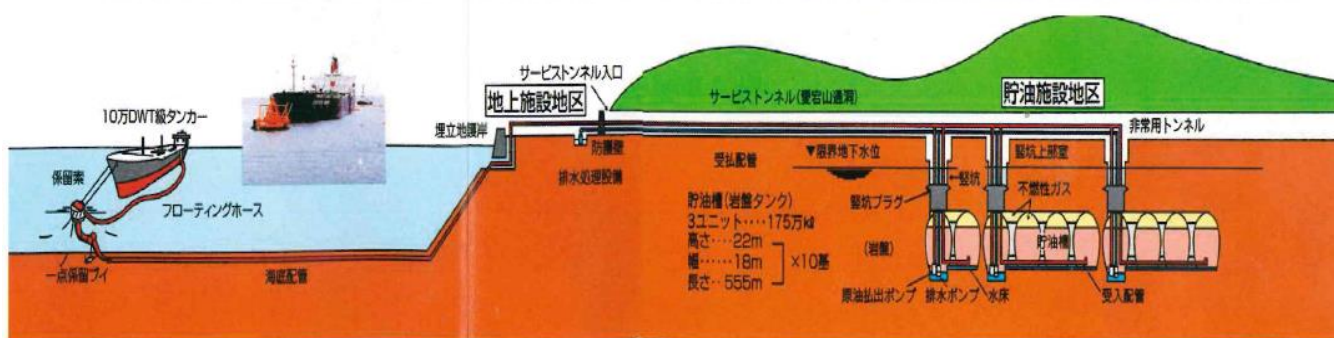


消火延焼防止訓練

今回の訓練で抽出された組織としての課題や問題点を改善に繋げることとし、防災体制の更なる強化を図るべく、有事に備えた訓練を積み重ね、今後も基地の無事故・無災害を継続し、基地の安全・安定操業に努めて参ります。

【地下岩盤タンクのしくみと水封式地下備蓄の原理】

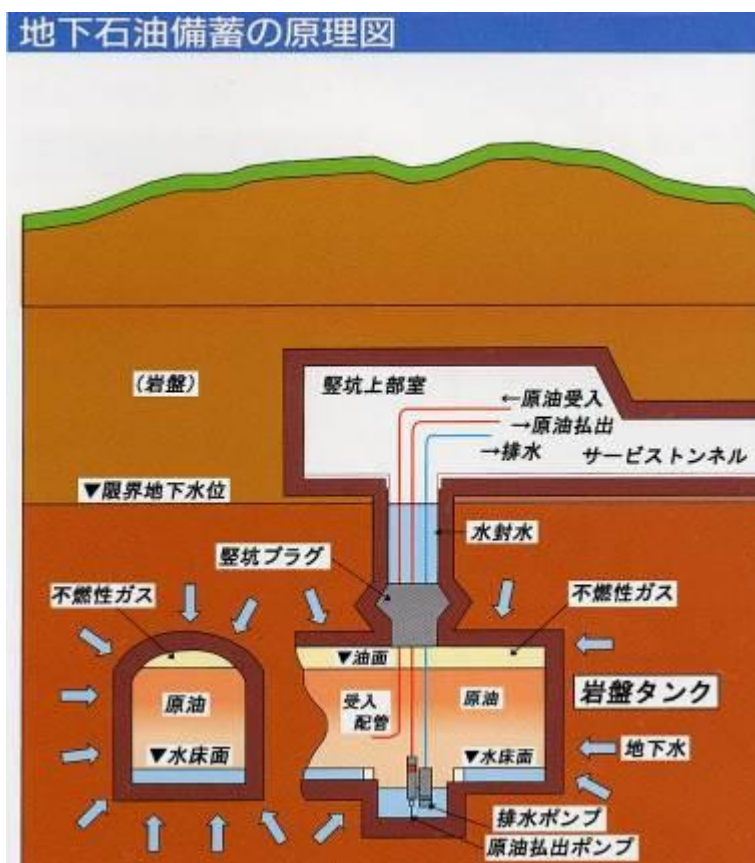
地下備蓄の概念図



水封式地下石油備蓄とは、
地下水面下の岩盤内に空洞
を掘ってそこに原油を貯蔵
する方式です。自然の地下
水に加え、一部水封トンネ
ルから水を供給して空洞の
周りの水圧を貯蔵された原
油の圧力より高くすること
によって、漏油、漏気を防
止するシステムです。

岩盤タンクの水床の上に
原油を貯めます。岩盤タン
クにしみ出た地下水は、底
水排水槽から排水ポンプに
より排出されます。

地下石油備蓄の原理図



13 消防協力団体の結成状況 (R4. 4. 1現在)

(1) いちき串木野市幼少年婦人防火委員会

◎ 結成年月日 昭和55年 5月 1日

◎ 目的

当委員会は、防火・防災に対する地域住民の理解と協力を得るため、その推進の中核となるクラブ等の結成、促進並びに育成強化を図ることを目的とする。

(委員名簿)

役 職 名	氏 名	所 属
会 長	谷 口 浩 貴	いちき串木野市消防長
委員 (監事)	西 村 博 孝	いちき串木野市消防団長
委 員	若 松 友 子	照島地区婦人防火クラブ会長
〃	岩 下 尚 功	羽島保育園幼年消防クラブ会長
〃	神 村 慎 二	神村学園附属幼稚園幼年消防クラブ会長
〃	井 上 恒 夫	くしきの森のこども園幼年消防クラブ会長
〃	児 玉 学	市来幼稚園幼年消防クラブ会長
〃	島 津 知 道	串木野保育園幼年消防クラブ会長
事 務 局	上 夷 征 史	いちき串木野市消防本部 予防課長

(2) 幼年消防クラブ

◎ 目的

幼年期に消防の研修を行い、火に対する正しい認識を身につけさせ、園及び各家庭の火災の予防を図るとともに、将来、人命を尊重し、財産の保全を図る社会人としての素地をかん養することを目的とする。

名 称	結 成 年 月 日	人 員
羽島保育園幼年消防クラブ	昭 和 6 0 年 5 月 2 0 日	7 3 名
会 長 岩 下 尚 功		
市来幼稚園幼年消防クラブ	昭 和 6 2 年 5 月 2 3 日	3 4 名
会 長 児 玉 学		
神村学園附属幼稚園幼年消防クラブ	平 成 2 年 7 月 1 6 日	1 6 9 名
会 長 神 村 慎 二		
くしきの森のこども園幼年消防クラブ	平 成 6 年 2 月 1 9 日	1 1 5 名
会 長 井 上 恒 夫		
串木野保育園幼年消防クラブ	平 成 2 8 年 7 月 4 日	6 4 名
会 長 島 津 知 道		

(3) 婦人防火クラブ

◎ 目的

家庭における火災の防止及び地域ぐるみの自主防災体制の確立が図られるよう初期消火等の訓練及び防火研修などを実施し、防火安全体制の確立を図ることを目的とする。

名 称	結 成 年 月 日	人 員
照島地区婦人防火クラブ	昭 和 5 2 年 7 月 2 3 日	1, 2 0 0 名
会 長 若 松 友 子		

(4) 防火管理協会

◎ 目的及び事業

災害予防対策の研究及び消防思想の普及発達に寄与することを目的とし、併せて会員相互の連絡親睦を厚くし、次の事業を行うものとする。

- ア 消防思想の普及高揚及び災害発生時における会員相互の応援業務
- イ 防火消防諸施設の視察研究
- ウ 自衛消防の強化促進
- エ 各種災害の予防対策の研究
- オ 消火器の維持管理の指導及び検査
- カ 優良事業所及び会員の表彰に関する事。
- キ 会員の弔慰見舞に関する事。
- ク その他本会の目的達成上必要と認めた事業

名 称	発 会 年 月 日	加 入 事 業 所 数
いちき串木野市防火管理協会	平成 1 8 年 5 月 2 4 日	1 2 0
会 長 溜 池 一 孝 副会長 吉 尾 逸 郎・長 友 克 憲		

(5) 危険物安全協会

◎ 目的及び事業

危険物保安対策の研究及び消防思想の普及宣伝並びに防火施設の拡充強化に寄与し、会員相互の融和親睦を図ることを目的として、次の事業を行うものとする。

- ア 消防関係、諸法規の周知徹底に関する事。
- イ 消防思想の普及宣伝に関する事。
- ウ 危険物及び高圧ガスに対する防火及び消防諸施設の視察並びに研究に関する事。
- エ 危険物取扱者の研修に関する事。
- オ 優良事業所及び優良従業員の表彰に関する事。
- カ 会員の弔慰に関する事。
- キ その他、本会の目的達成上必要と認めた事業

名 称	発 会 年 月 日	加 入 事 業 所 数
いちき串木野市危険物安全協会	平成 1 8 年 5 月 2 6 日	7 5
会 長 有 川 亨 副会長 迫 直・中屋文雄・寺田徳一郎		

IV 火災・救急・救助

火災件数	．．．．．	10件
損害額	．．．．．	2,379千円
死者	．．．．．	0人
負傷者	．．．．．	0人
救急件数	．．．．．	1,248件
搬送人員	．．．．．	1,175人
救助件数	．．．．．	15件
救助人員	．．．．．	4人

令和3年中の火災発生状況(内訳)

(参考資料)

火災 番号	月／日 発生時分	発生場所	種 別	原 因	初期 消火の 有無	焼損棟数、り災世帯及び人員								建物焼損面積		林 野 そ の 他	損害額 (千円)	死 者	負 傷 者
						全焼		半焼		部分焼		ぼや		床 面積 ㎡	表 面積 ㎡	焼 損 面 積 a・㎡			
						世 帯	人 員	世 帯	人 員	世 帯	人 員	世 帯	人 員						
1	2/8 5:40	旭町48番地	建物	電灯・電話等の配線	無					1				32			998		
2	4/4 9:00	大里2762番 地	建物	その他(含油白 土の自然発火)	有					1					18		1,374		
3	4/22 12:50	川上4264番地2	その他	たき火	有											53			
4	6/10 19:40	大里(下手中) 大里川右岸の法 面	その他	たき火	有											358			
5	7/23 6:50	住吉町16番地 郷之原第一公園	その他	放火の疑い	無												1		
6	9/23 14:50	生福8691番地	その他	たき火	有											332			
7	10/17 16:20	生福6036番地1 市道河内線北側法面	その他	放火の疑い	無											97			
8	10/24 13:20	大里6231番地 県公営住宅市来団 地東側	その他	たき火	有											87			
9	12/4 13:40	西薩町17番地44 空地	その他	その他	有											1121	6		
10	12/7 11:30	大里(中原) 1576番地2の竹 やぶ	その他	たき火	有											75			
合 計		建物: 2 件 林野: 件 車両: 件	船舶: 件 その他: 8 件 合計: 10 件			棟 住家 非住家	棟 住家 非住家	2 棟 住家 非住家2	棟 住家 非住家					32㎡	18㎡	林野 a その他 2123 ㎡	千円 2,379	名 0	名 0

※ ()は、爆発による件数等の再掲を示す。

2 火災統計

(1) 令和3年中の火災状況（いちき串木野市・鹿児島県・全国）

区 分	いちき串木野市	鹿児島県（概数）	全 国（概数）
火 災 件 数	10	637	35,077
建 物	2	291	19,461
林 野		29	1,228
車 両		67	3,494
船 舶		0	62
航 空 機		0	
そ の 他	8	250	10,832
焼 損 棟 数		431	28,565
建 物 焼 損 床 面 積（㎡）	32	21,056	975,134
建 物 焼 損 表 面 積（㎡）	18	1,522	119,544
林 野 焼 損 面 積（a）		541	67,112
り 災 世 帯 数	2	254	17,614
り 災 人 員	2	524	37,602
死 者	0	29	1,400
負 傷 者	0	85	5,369
損 害 額（千 円）	2,379	860,456	72,720,770
建 物	2,334	808,461	
林 野		885	
車 両		34,840	
船 舶		0	
航 空 機		0	
そ の 他	45	14,500	
爆 発		1,770	

(2) 過去5年間の年別火災概要

区 分 年	火 災 件 数						焼 損 棟 数					焼 損 面 積			死傷者		り災世帯数				り 災 人 員	損害額 (千円)
	建	林	車	船	そ の 計	全	半	部	ぼ	計	建物 床面積 ㎡	建物 表面積 ㎡	林 野 a	死 者	負 傷 者	全	半	小	計			
	物	野	両	舶	他	焼	焼	焼	や							損	損	損				
平成２９年	5	1	1		5	12	4	1	1	2	8	281	2	0.4			2		4	6	11	11,701
平成３０年	4		1		3	8	2		1	1	4	76	5		2		1			1	2	9,210
平成３１年 令和元年	6		2		9	17	1		3	3	7	127	8		1	3			4	4	12	3,624
令和２年	2		2		4	8	2		1		3	306	20				2			2	2	8,848
令和３年	2				8	10			2		2	32	18									2,379
合 計	19	1	6		29	55	9	1	8	6	24	822	53	0.4	3	3	5		8	13	27	35,762

(3) 過去5年間の原因別火災発生件数

原 因 年	たばこ	こんろ	マツチ・ライター	風呂かまど	炉	ストーブ	電気機器	電気装置	電灯・電話等配線	内燃機関	配線器具	火あそび	たき火	溶接機・切断機	灯火	火入れ	放火	放火の疑い	その他	交通機関内配線	不明・調査中	計
平成29年						1						1	3	2		4			1			12
平成30年				1							1		2						3		1	8
平成31年 令和元年	1	1											5		1	4	1		3		1	17
令和2年			2								1		4								1	8
令和3年									1				5					2	2			10
合 計	1	1	2	1		1			1		2	1	19	2	1	8	1	2	9		3	55

(4) 過去5年間の月別火災発生件数

年 月	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	計
1	1	1				2
2	1	1		1	1	4
3	3		1	1		5
4		1	1	1	2	5
5	1		4			5
6	1		1	1	1	4
7		2	1		1	4
8	2	1	3	1		7
9	1				1	2
10	2	2	1	2	2	9
11			4	1		5
12			1		2	3
計	12	8	17	8	10	55

(5) 過去5年間の曜日別火災発生件数

年 月	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	計
日	1	3	1		3	8
月	2		3	3	1	9
火				1	1	2
水	2	3	2			7
木	2	1	6	2	3	14
金	1		2	2	1	6
土	4	1	3		1	9
不明						0
計	12	8	17	8	10	55

(6) 過去5年間の時刻別火災発生件数

年 時間	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	計
0 ~ 1		1				1
1 ~ 2						0
2 ~ 3						0
3 ~ 4						0
4 ~ 5	1					1
5 ~ 6			1		1	2
6 ~ 7					1	1
7 ~ 8		1				1
8 ~ 9				1		1
9 ~ 10	3		2		1	6
10 ~ 11		1	3			4
11 ~ 12	2	1		1	1	5
12 ~ 13	1	1	3		1	6
13 ~ 14		1	1	2	2	6
14 ~ 15	1		3	1	1	6
15 ~ 16	1	2	1			4
16 ~ 17			1		1	2
17 ~ 18	2		2	2		6
18 ~ 19	1					1
19 ~ 20				1	1	2
20 ~ 21						0
21 ~ 22						0
22 ~ 23						0
23 ~ 24						0
不 明						0
計	12	8	17	8	10	55

(7) 火災発生時の気象状況

(R 3 年中)

月		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
気象状況														
天 気	快 晴		1		1									2
	晴									1	1		2	4
	曇				1		1	1			1			4
	雨													
	雪													
	不 明													
風 速 m/s	無風状態													
	1～2		1											1
	2～3							1			1			2
	3～4												1	1
	4～5				1		1			1				3
	5～6													
	6～7				1									1
	7～8												1	1
	8～9													
	9～10													
	不 明										1			1
風 向	北													
	北 北 東		1											1
	北 東													
	東 北 東						1	1						2
	東				1									1
	東 南 東													
	南 東													
	南 南 東													
	南				1									1
	南 南 西													
	南 西										1			1
	西 南 西													
	西													
	西 北 西													
	北 西													
	北 北 西												2	2
	不 明									1	1			2
湿 度 %	10～20													
	20～30													
	30～40				1									1
	40～50										1			1
	50～60												2	2
	60～70						1							1
	70～80							1						1
	80～90		1											1
	90～100				1									1
	不 明									1	1			2

3 救急業務統計

(1) 救急業務取扱状況

(R 3 年中)

		火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他				計
												転 院 搬 送	医 師 搬 送	資 器 材 等 輸 送	そ の 他	
出 場 件 数				3	52	16	10	194	4	8	670	291				1,248
不搬送件数				1	9			13		2	54					79
搬 送 人 員				2	48	16	11	181	4	6	616	291				1,175
性 別	男			2	30	12	7	78	2	4	319	143				597
	女				18	4	4	103	2	2	297	148				578

(2) 傷病程度別搬送状況

(R 3 年中)

	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他	計
死 亡				2			1			15	2	20
重 症				2	1		47		2	83	75	210
中 等 症				13	7	2	63	1	4	320	189	599
軽 症			2	31	8	9	70	3		198	25	346
そ の 他												
計			2	48	16	11	181	4	6	616	291	1,175

(3) 診療科目別搬送状況 (R3年中)

診療科目	搬送人員
循環器系 脳疾患	88
循環器系 心疾患	160
消化器系	106
呼吸器系	95
精神系	30
感覚系	71
泌尿器系	44
新生物	20
打撲・血腫	94
骨折	110
脱臼・捻挫	5
神経・頸椎(髄)損傷	5
創傷	40
内部損傷	2
異物・誤飲	1
溺水	0
熱傷・火傷	2
窒息	2
中毒	11
多発外傷	1
その他	288
合計	1,175

(4) 搬送別状況 (R3年中)

搬送種別	搬送人員
条理搬送	603
依頼搬送	572
合計	1,175

(5) 覚知別出場状況 (R3年中)

覚知別	出場件数
専用(119)	859
加入電話	373
庁内電話	0
駆け付け	5
現認	3
消防無線	6
その他	2
合計	1,248

(6) 居住地別搬送状況 (R3年中)

居住地別	搬送人員
市内居住者	1018
市外居住者	157
その他	0
合計	1,175

(7) 救急救命処置実施状況 (R3年中)

救急救命処置	男性	女性
気道確保	1	1
除細動	1	1
輸液	2	3
薬剤投与	0	3
合計	4	8

(8) 救命処置実施状況 (R3年中)

救命処置内容		実施件数
気道確保(気管挿管等)		2
除細動		2
輸液		4
うち心停止前		1
薬剤投与	アドレナリン	2
	ブドウ糖	1
血糖測定		7
合計		19

(9) 月別救急出場状況及び搬送人員の状況

(R 3年中)

月 別	区 分	事故種別	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他				計	不 搬 送
													転 院 搬 送	医 師 搬 送	資 器 材 等 輸 送	そ の 他		
1	件 数				7			7	1	1	47	26					89	5
	人 員				6			7	1	1	43	26					84	
2	件 数				4			1	14			51	25				95	6
	人 員				5			1	13			46	25				90	
3	件 数			1	7	1	1	21	1			60	31				123	11
	人 員			1	4	1	1	19	1			54	31				112	
4	件 数				1	2	1	14				44	19				81	6
	人 員				1	2	2	12				40	19				76	
5	件 数				4	1		14		1		60	21				101	7
	人 員				4	1		13		1		54	21				94	
6	件 数			2	5	3	1	23	1	1		47	24				107	6
	人 員			1	4	3	1	22	1	1		45	24				102	
7	件 数				6	2	4	13			2	56	25				108	8
	人 員				5	2	4	12				52	25				100	
8	件 数				3	2		21				66	29				121	4
	人 員				4	2		20				63	29				118	
9	件 数				3	2		12				40	17				74	4
	人 員				3	2		12				36	17				70	
10	件 数				5	1	1	16		3		62	24				112	8
	人 員				4	1	1	14		3		57	24				104	
11	件 数				3	1		21				63	18				106	5
	人 員				4	1		19				60	18				102	
12	件 数				4	1	1	18	1			74	32				131	9
	人 員				4	1	1	18	1			66	32				123	
合 計	出 件 場 数			3	52	16	10	194	4	8	670	291					1,248	79
	搬 入 送 員			2	48	16	11	181	4	6	616	291					1,175	

(10) 曜日別救急出場状況

(R 3 年中)

曜日 事故種別	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他の				計
											転院搬送	医師搬送	資器材等輸送	その他の	
日				8	1	2	24	1	3	114	13				166
月				4	3		29			114	53				203
火			2	12	2	3	23		1	108	51				202
水				2		2	29	1	1	74	45				154
木				11	6		25			78	36				156
金			1	8	3	2	33	1	1	97	49				195
土				7	1	1	31	1	2	85	44				172
合 計			3	52	16	10	194	4	8	670	291				1,248

(11) 現場到着所要時間別出場件数

(R 3 年中)

現場到着 事故種別	所要時間					計	現場到着平均 所要時間 (分)
	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上		
急 病	9	102	387	162	10	670	7.8
交 通 事 故		6	16	29	1	52	9.9
一 般 負 傷	4	28	111	48	3	194	7.7
そ の 他	10	80	209	33		332	6.1
合 計	23	216	723	272	14	1,248	7.2

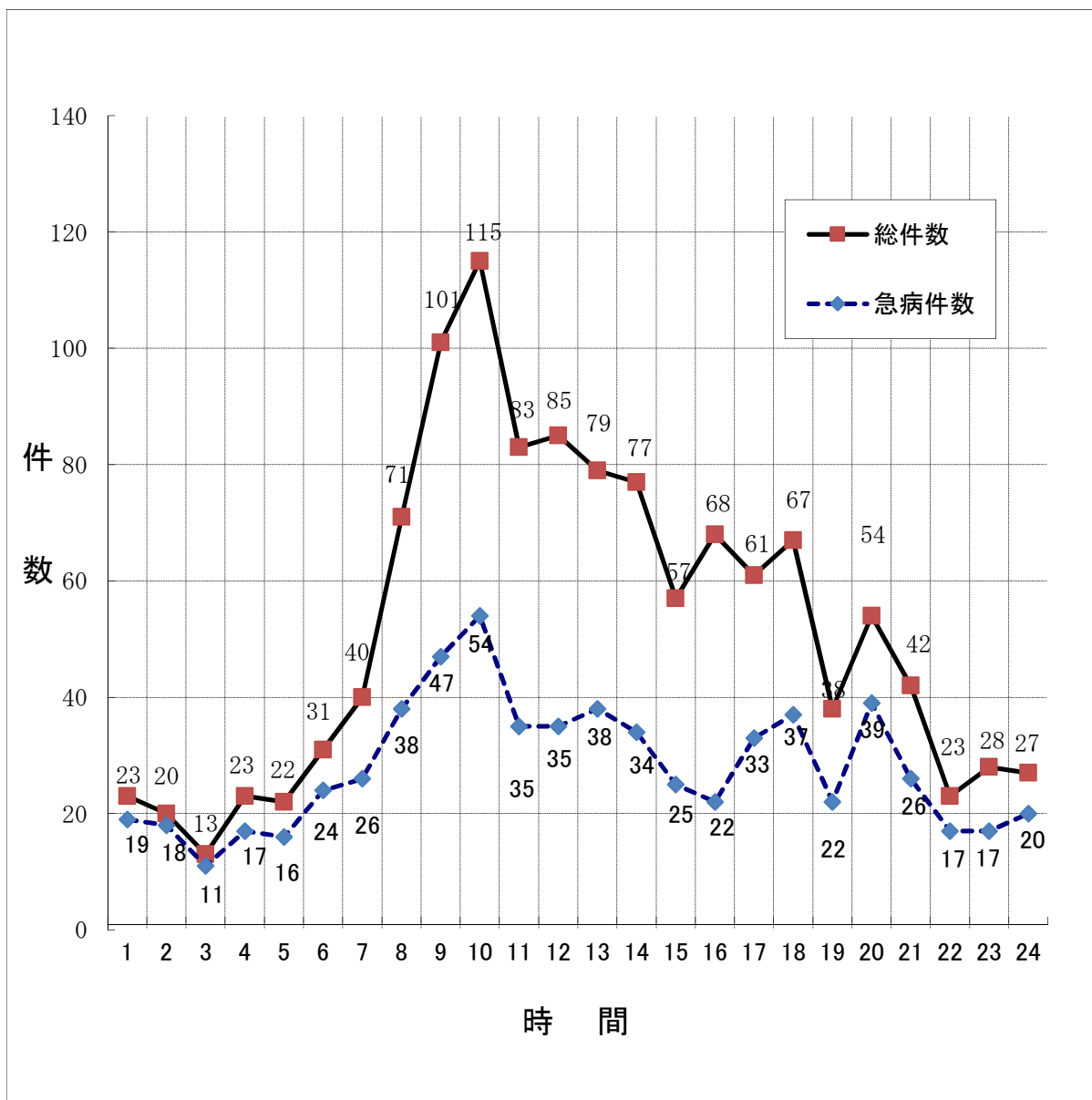
(12) 収容所要時間別搬送人員

(R 3 年中)

収容所要時間 事故種別	所要時間					計	収 容 平 均 所要時間 (分)
	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上		
急 病		36	169	334	77	616	39.1
交 通 事 故		1	6	31	10	48	44.7
一 般 負 傷		12	48	104	17	181	35.3
そ の 他		30	53	227	20	330	43.2
合 計		79	276	696	124	1,175	39.8

(13) 時間別出場状況（総件数及び急病件数）

(R 3 年中)



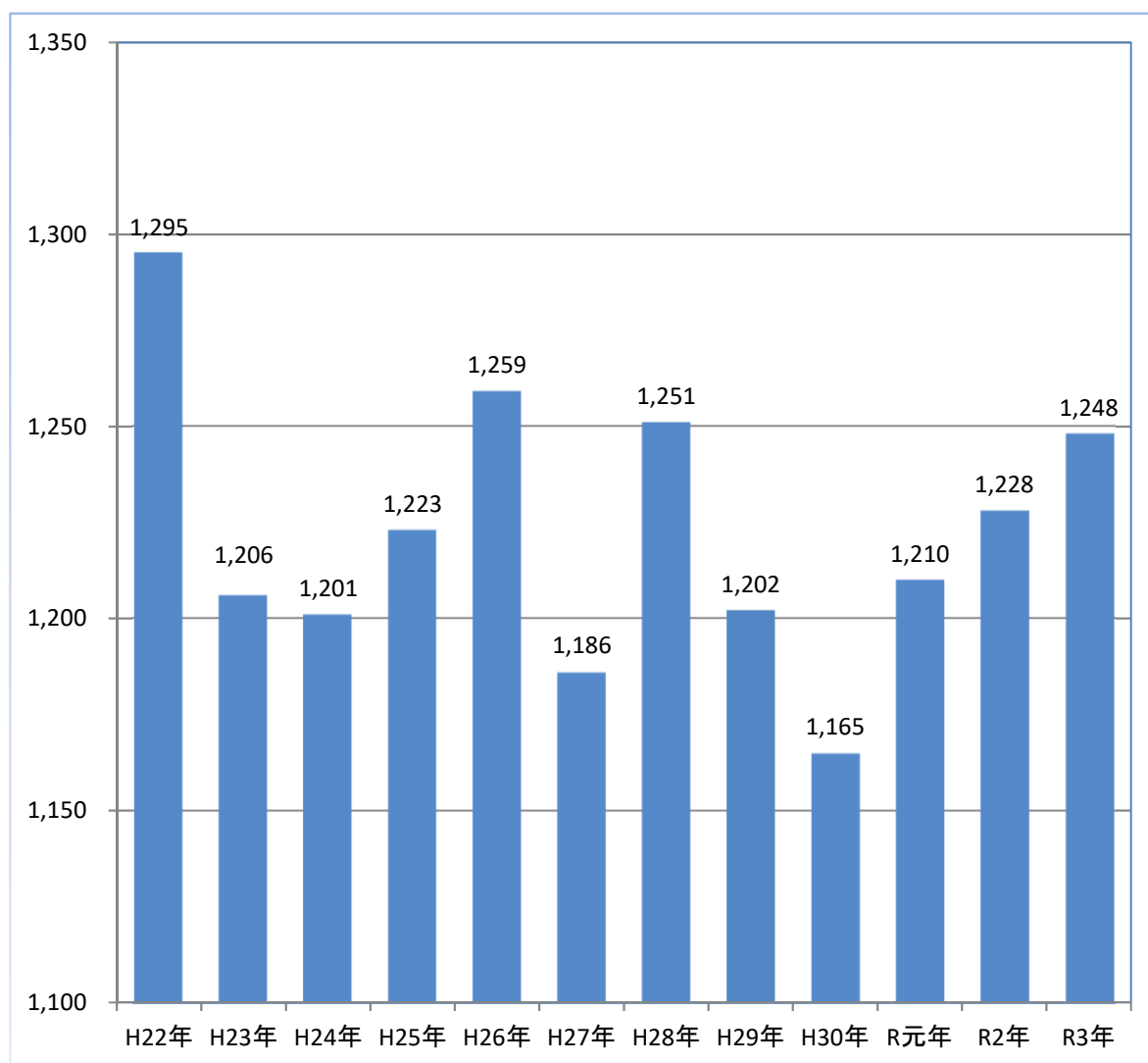
(14) 市別搬送状況（搬送先）

(R 3 年中)

搬送先 区分	いちき串木野市	鹿児島市	薩摩川内市	日置市	その他	計
搬送人員	616	243	154	142	20	1,175
比率（％）	52.43	20.68	13.11	12.09	1.70	

※注 比率にあつては、小数点以下第3位を四捨五入しているため、合計が100にならないことがあります。

(15) 救急出場件数の推移



(16) 過去5年間の救急出場状況

事故種別 年別	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他				計
											転院搬送	医師搬送	資器材等輸送	その他	
平成29年			4	45	17	20	155	1	7	672	281				1,202
平成30年			3	62	9	11	166	3	7	633	270			1	1,165
令和元年	2		1	60	17	17	171	2	8	605	326			1	1,210
令和2年			6	66	11	8	167	2	11	627	330				1,228
令和3年			3	52	16	10	194	4	8	670	291				1,248

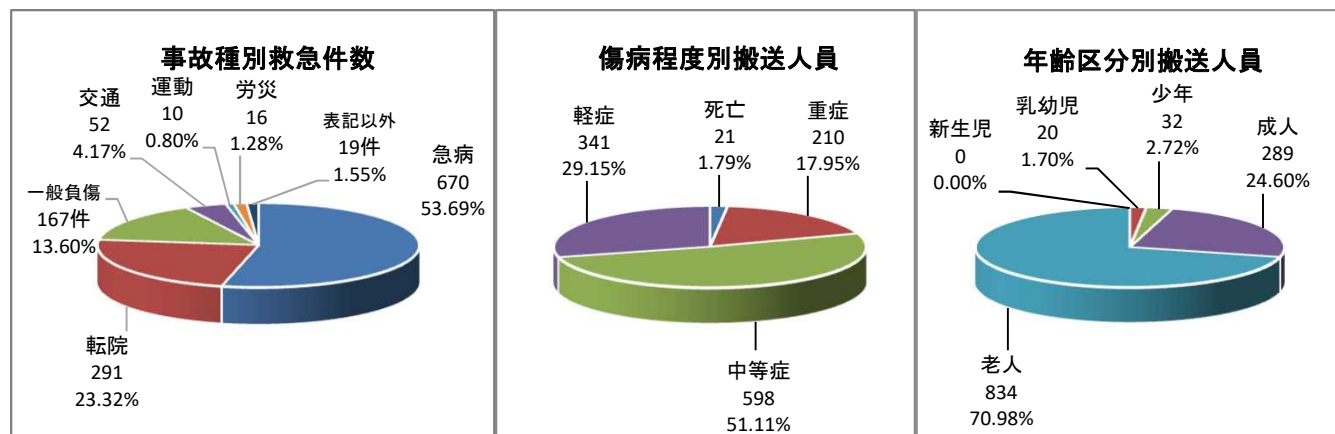
(17) 年齢別搬送人員状況

(R 3 年中)

年 齢 別	事 故 種 別	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他				合 計
												転 院 搬 送	医 師 搬 送	資 器 材 等 輸 送	そ の 他	
0～9					1			9			13					23
10～19					3		11	2	1		21	3				41
20～29					7	6		1		1	22	4				41
30～39				1	2	2		6	1		23	3				38
40～49					6	2		5		1	25	9				48
50～59					7	6		6	2	2	55	17				95
60～69					6			22		1	82	30				141
70～79				1	12			41		1	124	72				251
80～89					3			61			156	103				323
90～					1			28			95	50				174
計				2	48	16	11	181	4	6	616	291				1,175

(18) 各 比 率

(R 3 年中)



※注 比率にあつては、小数点以下第3位を四捨五入しているため、合計が100にならないことがあります。

※ 救急出場件数 1,248件
 ※ 搬送人員 1,175人

※ 年齢区分
 新生児（生後28日未満）
 乳幼児（28日以上7歳未満）
 少年（7歳以上18歳未満）
 成人（18歳以上65歳未満）
 老人（65歳以上）

4 救助業務統計

(1) 救助出動状況

(R3年中)

	月 日	事 故 種 別	災 害 発 生 場 所	出動車両	出動人員	活動車両	活動人員	救助人員
1	1/2	交通事故	湊町 市来神社付近	2	6	0	0	0
2	1/19	交通事故	桜町 中央オートサービス付近	2	4	0	0	0
3	2/4	その他の事故	大里駅前 重信川	2	4	2	4	1
4	3/11	交通事故	生福 吉村宅付近	2	4	0	0	0
5	3/26	水難事故	照島神社南西側海岸	2	4	0	0	0
6	3/27	交通事故	京町 旧春田整形外科付近	2	5	0	0	0
7	3/31	交通事故	西回り自動車道上り 123.9P	2	4	0	0	0
8	5/1	その他の事故	小瀬ドック付近	2	4	2	4	1
9	5/2	交通事故	川上 田淵組付近	3	6	0	0	0
10	6/17	交通事故	串木野ダム付近	2	4	0	0	0
11	6/21	その他の事故	荒川 富宿宅付近	3	7	3	7	1
12	6/29	水難事故	まぐろ本町漁港外港	2	4	0	0	0
13	7/6	交通事故	生福 鎗楠公民館付近	2	4	2	4	1
14	7/31	交通事故	西回り自動車道上り 125P	3	6	0	0	0
15	9/6	交通事故	西回り自動車道都 IC OUT ランプ	2	4	0	0	0
合 計				33	70	9	19	4

(2) 過去5年間の救助出動状況

年 区 分		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
出 動 件 数		8	13	17	1	15
活 動 件 数		1	9	8	8	4
救 助 人 員		1	9	12	10	4
事 故 種 別	火 災					
	交 通 事 故	5	4	9	7	10
	水 難 事 故	2	3		5	2
	自 然 災 害			4	1	
	機 械	1	1			
	建 物			1		
	ガス・酸欠					
	爆 発					
	そ の 他		5	3	3	3

5 応援協定等の締結状況

(R 4. 4. 1 現在)

締結年月日	協 定 先 名	協 定 の 種 類
S36. 9. 25	い ち き 串 木 野 警 察 署	災 害 救 助 に 関 す る 協 定
S45. 6. 15	串 木 野 海 上 保 安 部	船 舶 火 災 の 消 火 に 関 す る 業 務 協 定 H 6 . 8 . 1 9 一 部 改 正
H9. 9. 24	日 本 地 下 石 油 備 蓄 (株) 串 木 野 事 業 所	串 木 野 市 と 日 本 地 下 石 油 備 蓄 (株) 串 木 野 事 業 所 と の 応 援 協 定
H10. 4. 1	薩 摩 川 内 市 消 防 局	携 帯 電 話 等 か ら の 1 1 9 番 通 報 転 送 等 に 関 す る 協 定
H10. 6. 26	県 内 各 市 町 村 及 び 各 消 防 本 部	鹿 児 島 県 消 防 ・ 防 災 ヘ リ コ プ タ ー 応 援 協 定
H12. 3. 1	い ち き 串 木 野 市 医 師 会	救 急 救 命 士 に 対 す る 医 師 の 指 示 に 関 す る 協 定
H17. 11. 18	薩 摩 川 内 市	消 防 及 び 救 急 業 務 相 互 応 援 協 定
H17. 12. 12	日 置 市	消 防 ・ 救 急 業 務 相 互 応 援 協 定
H18. 10. 25	県 内 市 町 村 及 び 消 防 の 一 部 事 務 組 合	鹿 児 島 県 消 防 相 互 応 援 協 定
H19. 3. 1	国 土 交 通 省 鹿 児 島 国 道 事 務 所 県 警 察 本 部 交 通 部 高 速 道 路 交 通 警 察 局 薩 摩 川 内 市 消 防 局	南 九 州 西 回 り 自 動 車 道 に お け る 緊 急 時 の 通 報 並 び に 出 動 に 関 す る 覚 書
H19. 3. 2	鹿 児 島 市 日 置 市 薩 摩 川 内 市	南 九 州 西 回 り 自 動 車 道 に お け る 消 防 相 互 応 援 協 定 H 2 7 . 3 . 7 一 部 改 正
H23. 12. 22	各 市 町 村	鹿 児 島 県 ド ク タ ー ヘ リ 運 行 事 業 に お け る 救 急 搬 送 に 関 す る 相 互 応 援 協 定
H29. 8. 1	プ リ マ ハ ム 株 式 会 社 鹿 児 島 工 場	災 害 時 に お け る 協 力 要 請 に 関 す る 覚 書
H30. 6. 20	串 木 野 地 区 生 コ ン ク リ ー ト 協 同 組 合	災 害 時 に お け る 消 防 用 水 等 の 確 保 に 関 す る 協 定
R2. 6. 1	い ち き 串 木 野 市 危 険 物 安 全 協 会	災 害 時 に お け る 燃 料 の 供 給 に 関 す る 協 定 書
R2. 7. 21	南 薩 砂 利 株 式 会 社	災 害 時 に お け る 物 資 供 給 及 び 応 急 対 策 に 関 す る 協 定 書
R4. 4. 1	鹿 児 島 プ ロ フ ー ズ 株 式 会 社	災 害 時 に お け る 消 防 水 利 の 使 用 に 関 す る 協 定

V 機 械 ・ 水 利

消 防 車 両	消防本部（署）・・・・・・・・・・	14台
	消防団・・・・・・・・・・	17台
消 火 栓	・・・・・・・・・・・・・・・・	548基
防 火 水 槽	・・・・・・・・・・・・・・・・	300基
消 防 無 線	基地局・・・・・・・・・・	1基
	固定局・・・・・・・・・・	2基
	陸上移動局（卓上）・・・・・・・・	1基
	陸上移動局（可搬）・・・・・・・・	1基
	陸上移動局（車載）・・・・・・・・	31基
	陸上移動局（携帯）・・・・・・・・	42基

1 基準消防力と現有消防力との比較

(1) 消防本部（署）

(R 4. 4. 1 現在)

種 別 \ 区 分	基 準	現 有	充足率 (%)	過・不足 (▲)
署所の数	2	2	100	0
人員	100	49	49.0	▲ 51
消防ポンプ車	3	3	100	0
はしご車	1	1	100	0
化学車	1	1	100	0
救急車	2	2	100	0
救助工作車	1	1	100	0
非常用消防自動車	0	0	—	0
非常用救急自動車	1	1	100	0

(※人員現有は再任用 1 名含む)

(2) 消防団

(R 4. 4. 1 現在)

区 分 \ 種 別		基 準	現 有	充足率(%)	過・不足 (▲)
市街地	動力消防ポンプ	9 口	消防ポンプ車 3 台 6 口	111	1 口
			小型動力ポンプ 4 台 4 口		
準市街地	動力消防ポンプ	19 口	消防ポンプ車 5 台 10 口	79	▲4 口
			小型動力ポンプ 5 台 5 口		
その他	動力消防ポンプ	11 口	消防ポンプ車 2 台 4 口	100	0 口
			小型動力ポンプ 7 台 7 口		
人 員		297 人	253 人	85.5	▲ 44 人

(3) 消防職・団員と市民との割合

(R 4. 4. 1 現在)

種 別 \ 区 分	消 防 職 員 (1 人 当 り)	消 防 団 員 (1 人 当 り)
世 帯 (13,054)	266.4	51.6
人 口 (26,557)	542.0	105.0

イ 市来地域

(R 4 . 4 . 1 現在)

分団名	種 別	車 種	車 名	車 両 番 号	登 録 年 月	ポンプ性能 (ℓ/分)	排気量 (cc)	定員 (人)	総重量 (kg)	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	備 考
湊	消防ポンプ自動車	いすゞ	飛 竜	鹿児島88 す 8413	1997年11月	A-2 森田	4,570	7	3,945	549	190	247	ディーゼル車
	小型動力ポンプ				2005年3月	B-3 トーハツ 1420	617						石油交付金事業
川 南	消防ポンプ自動車	日 野 蒼	竜	鹿児島800 す 779	2008年2月	A-2 GMいちはら	4,000	10	4,560	572	188	256	ディーゼル車 石油交付金事業
	小型動力ポンプ				2003年10月	B-3 トーハツ 1,440	617						石油交付金事業
川 北	消防ポンプ自動車	日 野 海	竜	鹿児島800 せ 1589	2022年2月	A-2 小川ホソノ	4,000	8	4,620	576	188	255	ディーゼル車 石油交付金事業
	小型動力ポンプ				2005年3月	B-3 トーハツ 1420	617						石油交付金事業
川 上	消防ポンプ自動車	日 野 昇	竜	鹿児島800 す 1382	2009年1月	A-2 吉谷	4,000	10	4,730	588	188	252	ディーゼル車 石油交付金事業
	小型動力ポンプ				2007年11月	B-3 トーハツ 1,130	526						石油交付金事業

(3) 署・各分団のホース保有状況

(R 4. 4. 1 現在)

署・団	7	ホース本数			
		4 0 mm	5 0 mm	6 5 mm	小計
消防署		17	76	149	242
分遣所		7	59	69	135
中 央		2	18	76	96
本 浦		2	20	66	88
照 島		2	20	68	90
羽 島		6	20	96	122
羽 島 (土川班)					
荒 川		2	15	49	66
旭		2	5	66	73
生 福		2	14	65	81
冠 岳		2	13	58	73
湊			10	66	76
川 南			10	66	76
川 北			10	62	72
川 上			10	64	74
合 計		44	300	1, 020	1, 364

(4) 消防資機材の保有状況

(R 4. 4. 1 現在)

（R 4. 4. 1 現在）										（R 4. 4. 1 現在）										
車両等別 種 別	署 タ ン ク 車	署 ポ ン プ 2 車	は し ご 車	化 学 車	救 助 工 作 車	指 揮 車	器 材 庫 他	い ち き 分 遣 所	合 計	車両等別 種 別	署 タ ン ク 車	署 ポ ン プ 2 車	は し ご 車	化 学 車	救 助 工 作 車	指 揮 車	資 材 庫 他	い ち き 分 遣 所	合 計	
か ぎ 付 は し ご	1	1	1		1			2	6	送 排 風 機					2				2	
三連はしご(二連)	1	(1)			1			2	4(1)	ジェットシューター (ウォーターチャージャー)	7(1)							2	9 (1)	
金属製折畳みはしご							1		1	東消式簡易発泡器				1			1		2	
空気式救助マット							1		1	耐 電 手 袋			3		4	2			9	
救 命 索 発 射 銃					1				1	ス ト ラ イ カ ー (破 壊 器 具)					1			1	2	
サバイバースリング					2				2	発 電 機	1		1		2		4	2	10	
各種救助用縛帯			1		1			3	5	投 光 器	1		1		4		5	3	14	
ポ ー ト パ ワ ー							1		1	ラインプロポーションナー				1			1	1	3	
可搬式ウインチ					1		1	1	3	オイルフェンス(A型) 140m							1		1	
エンジンカッター	1				1			1	3	非接触温度計 (プロサーモ)					1				1	
溶 断 器					1				1	ウェアラブルカメラ	1				1	1		1	4	
チェ ー ン ソ ー			1		1		7	2	11	デジタル風位風速計						1			1	
鉄 線 カ ッ タ ー	1	1	1		2		1	1	7	【車載固定型資機材】										
万能斧(ベンケイ)					3			2	5	車載伸縮式照明装置	1				1				2	
鉄 筋 カ ッ タ ー					1				1	車載固定型ウインチ					1				1	
可燃性ガス・酸素測定器					2			2	4	車 載 ク レ ー ン					1			1	2	
空 気 呼 吸 器	4	4	4	3	4		4	5	28	オートハイドレックス					1				1	
防 毒 マ ス ク							5		5	【緊急消防援助隊用】										
耐 熱 服				4					4	寝 袋								10	10	
潜水資器材一式							6		6	テ ン ト 一 式								1	1	
救 命 胴 衣	6				4		34	33	77	簡 易 ベ ッ ド								7	7	
救 命 浮 環	1				1		7	2	11	折畳み椅子 (テーブル)								5(2)	5(2)	
各種救助用担架			1		4		4	3	12	高機能救命ボート一式								1	1	
携 帯 拡 声 器	1	1	2	1	3	2		2	12	【水防資器材等】										
油圧救助器具一式					4			1	5	ス コ ッ プ								20	19	39
マット型空気ジャッキ一式					2				2	ツ ル ハ シ								7		7
レ シ プ ロ ソ ー					1			1	2	鋸								5	2	7
車両固定器具					1				1	斧								6	1	7
マンホール救助器具					1				1	鎌								3	2	5
空 気 鋸					1			1	2	掛 矢								8	1	9
野営用エアテント一式							1		1	ナ タ								8	3	11
無人航空機一式						1			1	土 の う								1460	650	2110
簡易画像探索機					1				1	ビニールシート								8	7	15
熱画像直視装置					1				1	クイ (鉄・木製)								139	4	143
ハンマードリル					1		1		2	造林鎌・鉋	8	4	12							

(5) 消火薬剤等の保有状況

(R4. 4. 1 現在)

合 成 界 面 活 性 剤 （ プ ロ フ ォ ー ム ）		1, 0 4 0 ℓ
フ ォ レ ッ ク ス パ ン S		1 6 0 ℓ
た ん ぱ く 泡 （ エ ア フ ォ ー ム 3 % ・ 6 % ）		2, 1 6 0 ℓ
油 吸 着	吸 着 マ ッ ト	8 7 枚
吸 収 材 等	吸 着 （ 収 ） 材	3 0 kg
流 出 油 処 理 剤		3 6 ℓ
オ イ ル フ ェ ン ス （ S 0 - 2 0 0 E ）		1 4 0 m

(6) 原子力防災資機材の保有状況

(R4. 4. 1 現在)

空 気 呼 吸 器 （ 県 貸 与 ）		2 1 基
ポ ケ ッ ト 線 量 計	ア ラ ー ム 機 能 な し	6 6 個
	ア ラ ー ム 機 能 あ り	5 1 個
防 護 マ ス ク		1 3 5 個（フィルター719個）
防 護 服	ア ノ ラ ッ ク 型	4 1 6 着
	タ イ ベ ッ ク 型	4 0 5 着
防 護 靴		1 8 4 足
防 護 靴 （ オ ー バ ー シ ュ ー ズ ）		4 9 6 足
防 護 手 袋	ゴ ム 製	5 0 0 双
	綿 製	4 9 2 双
作 業 帽		8 0 1 個
携 帯 用 拡 声 器		1 5 基
サーバイメータ（ポケット型含む。）		7 基
イ ー ジ ー ア ッ プ テ ン ト		3 張
資 機 材 運 搬 用 車 両		1 台
脚 付 き 両 開 き ボ ー ド		1 台
資 機 材 保 管 庫		3 個
マ ル チ プ ロ ジ ェ ク タ		1 台
ス ク リ ー ン		1 台
エ ア ー テ ン ト		1 式
化 学 防 護 服		5 着
可 搬 型 衛 星 携 帯 電 話		1 式
簡 易 放 送 用 設 備		1 式
空気呼吸器拡声器（充電器含む。）		1 8 基
デ ジ タ ル カ メ ラ		2 基
ワ イ ヤ レ ス メ ガ ホ ン		1 式
エ ア ー 膨 張 式 投 光 装 置		1 式
空 気 ボ ン ベ 用 空 気 圧 縮 機		1 基

(7) 消防水利の状況（消防水利の基準に適合しないものも含む。）

ア 串木野地域

(R 4. 4. 1 現在)

水利の別		地区別	中 央	本 浦	照 島	羽 島	荒 川	旭	生 福	冠 岳	合 計
配管及び水量											
消 火 栓 (公 設)	350mm		1		1						2
	300mm		7		2						9
	250mm		8	1	2						11
	200mm		8	9	4	1				4	26
	150mm		37	18	20	8	4		7	3	97
	100mm		57	9	21	11	3	4	15	2	122
	75mm		28	7	15	19	5	11	5	3	93
小 計 A			146	44	65	39	12	15	27	12	360
防 火 水 槽 (公 設)	40m ³ 以上		18	4	16	7	7	3	9	5	69
	30m ³ 以上 40m ³ 未満		43	6	18	17	5	10	14	6	119
	20m ³ 以上 30m ³ 未満		2	1	3	1		2		3	12
	20m ³ 未満		5	1		2					8
	(私 設)										
(私 設)	40m ³ 以上		2		1						3
小 計 B			70	12	38	27	12	15	23	14	211
プール	40 m ³ 以 上		3		3	2	1	1	1	1	12
河 川	常時取水可能		7	1	3	2	3	1	4	2	23
海 水	常時取水可能			4	1	1					6
小 計 C			10	5	7	5	4	2	5	3	41
総 計 A + B + C			226	61	110	71	28	32	55	29	612

イ 市来地域

(R 4. 4. 1 現在)

水利の別		地 区 別 配管及び水量	湊	川 南	川 北	川 上	合 計
消 火 栓 (公 設)	200mm	15					15
	150mm	6	8	5			19
	125mm	1					1
	100mm	21	14	19	10		64
	75mm	19	15	11	14		59
	65mm以下	3	5	14	8		30
小 計 A		65	42	49	32		188
防 火 水 槽 (公 設)	40m ³ 以上	22	15	19	23		79
	30m ³ 以上	1	1	1			3
	40m ³ 未満						
	20m ³ 以上			5			5
	30m ³ 未満						
(私 設)	20m ³ 未満						
	40m ³ 以上			2			2
小 計 B		23	16	27	23		89
プー ル	40 m ³ 以 上	1	2		1		4
河 川	常時取水可能	5		3	2		10
海 水	常時取水可能						
小 計 C		6	2	3	3		14
総 計 A + B + C		94	60	79	58		291

(8) 消防無線の状況

ア 消防本部

(R 4. 4. 1 現在)

局 別 数	電 力	周 波 数	呼 称	設 置 場 所	納品年月	経過年数	会 社 名	再免年月					
基地局	1	20W	① 活動波 1 ② 活動波 2	いくしょうほんぶ (送受信所) 長城中継所 (通信所) 消防本部	H28. 3	6 年	富 士 通 ゼネラル	R 7. 5					
固定局	2	500mW	7.5GHz帯周波数 (長城中継所・ 消防本部間通信 確保用)	いくしょうちょうじょう	長城中継所	H28. 3	日本無線	R 4. 11					
			いくしょうほんぶ	消防本部	H28. 3	6 年		R 4. 11					
陸上移動局 (卓上型)	1	10W	① 活動波 1 ② 活動波 2 ③ 統制波 1 ④ 統制波 2 ⑤ 統制波 3 ⑥ 主運用波 3	いくしょうほんぶ 1	消防本部	H28. 3	富 士 通 ゼネラル	R 7. 5					
陸上移動局 (可搬型)	1			いくしょうかはん 1	いちき分遣所	H28. 3		6 年	R 7. 5				
陸上移動局 (車載型)	14			いくしょうしき 1	指揮車	H28. 3		6 年	R 7. 5				
				いくしょうたんく 1	署タンク車	H28. 3		6 年	R 7. 5				
				いくしょうたんく 2	通信室保管	H28. 3		6 年	R 7. 5				
				いくしょうぼんぷ 1	ポンプ 1	H28. 3		6 年	R 7. 5				
				いくしょうぼんぷ 2	銀河号	H28. 3		6 年	R 7. 5				
				いくしょうかがく 1	化学車	H28. 3		6 年	R 7. 5				
				いくしょうきゅうじょ 1	救助工作車	H28. 3		6 年	R 7. 5				
				いくしょうはしご 1	梯子車	H28. 3		6 年	R 7. 5				
				いくしょうぼうかつ 1	防災活動車	H28. 3		6 年	R 7. 5				
				いくしょうしえん 1	資器材搬送	H28. 3		6 年	R 7. 5				
				いくしょうしえん 2	資器材搬送	H28. 3		6 年	R 7. 5				
				いくしょうきゅうきゅう 1	救急 1 号車	H28. 3		6 年	R 7. 5				
				いくしょうきゅうきゅう 2	救急 2 号車	H28. 3		6 年	R 7. 5				
				いくしょうきゅうきゅう 3	救急 3 号車	H28. 3		6 年	R 7. 5				
								① 活動波 1 ② 活動波 2 ③ 統制波 1 ④ 統制波 2 ⑤ 統制波 3 ⑥ 主運用波 3	いくしょう 1 1	指揮車	H28. 3	富 士 通 ゼネラル	R 7. 5
									いくしょう 1 2		H28. 3		6 年
いくしょう 1 3	H28. 3	6 年	R 7. 5										
いくしょう 1 4	署タンク車	H28. 3	6 年				R 7. 5						
いくしょう 1 5		H28. 3	6 年				R 7. 5						
いくしょう 1 6		H28. 3	6 年				R 7. 5						
いくしょう 1 7		H28. 3	6 年				R 7. 5						
いくしょう 1 8	救急 1 号車	H28. 3	6 年				R 7. 5						
いくしょう 1 9		H28. 3	6 年				R 7. 5						
いくしょう 2 0	救助工作車	H28. 3	6 年				R 7. 5						
いくしょう 2 1		H28. 3	6 年				R 7. 5						
いくしょう 2 2		H28. 3	6 年				R 7. 5						
いくしょう 2 3	救急 2 号車	H28. 3	6 年				R 7. 5						
いくしょう 2 4		H28. 3	6 年				R 7. 5						
いくしょう 2 5		H28. 3	6 年				R 7. 5						
いくしょう 2 6	通信指令室	H28. 3	6 年				R 7. 5						
いくしょう 2 7		H28. 3	6 年				R 7. 5						
いくしょう 2 8		H28. 3	6 年				R 7. 5						
いくしょう 2 9		H28. 3	6 年				R 7. 5						
いくしょう 3 0	ポンプ 1	H28. 3	6 年				R 7. 5						
いくしょう 3 1		H28. 3	6 年				R 7. 5						
いくしょう 3 2		H28. 3	6 年				R 7. 5						
いくしょう 3 3	救急 3 号車	H28. 3	6 年				R 7. 5						
いくしょう 3 4		H28. 3	6 年				R 7. 5						
いくしょう 3 5	銀河号	H28. 3	6 年				R 7. 5						
いくしょう 3 6		H28. 3	6 年				R 7. 5						
いくしょう 3 7		H28. 3	6 年				R 7. 5						

イ 消防団

(R 4 . 4 . 1 現在)

局 別 数	電力	周 波 数	呼 称	設 置 場 所	納品年月	経過年数	会 社 名	再免年月	
陸上移動局 (車載型)	17	10W	① 活動波 1 ② 活動波 2 ③ 統制波 1 ④ 統制波 2 ⑤ 統制波 3 ⑥ 主運用波 3	いくしょうだんほんぶ 1	団本部 団本部車	H28. 3	6 年	富 士 通 ゼネラル	R7. 5
				いくしょうちゅうおう 1	中央分団 たつまき号	H28. 3	6 年		R7. 5
				いくしょうちゅうおう 2	中央分団 すいせい号	H28. 3	6 年		R7. 5
				いくしょうもとうら 1	本浦分団 あさかぜ号	H28. 3	6 年		R7. 5
				いくしょうてるしま 1	照島分団 照月号	H28. 3	6 年		R7. 5
				いくしょうてるしま 2	照島分団 くろせ号	H28. 3	6 年		R7. 5
				いくしょうはしま 1	羽島分団 さちかぜ号	H28. 3	6 年		R7. 5
				いくしょうはしま 2	羽島分団 積載車	H28. 3	6 年		R7. 5
				いくしょうつちかわ 1	羽島分団 あこう号	H28. 3	6 年		R7. 5
				いくしょうあらかわ 1	荒川分団 荒星号	H28. 3	6 年		R7. 5
				いくしょうあさひ 1	旭分団 こがね号	H28. 3	6 年		R7. 5
				いくしょうせいふく 1	生福分団 生龍号	H28. 3	6 年		R7. 5
				いくしょうかんむりだけ 1	冠岳分団 やまびこ号	H28. 3	6 年		R7. 5
				いくしょうみなと 1	湊分団 飛竜	H28. 3	6 年		R7. 5
				いくしょうかわみなみ 1	川南分団 蒼竜	H28. 3	6 年		R7. 5
				いくしょうかわきた 1	川北分団 海竜	H28. 3	6 年		R7. 5
				いくしょうかわかみ 1	川上分団 昇竜	H28. 3	6 年		R7. 5
陸上移動局 (携帯型)	15	5W	① 活動波 1 ② 活動波 2 ③ 統制波 1 ④ 統制波 2 ⑤ 統制波 3 ⑥ 主運用波 3	いくしょうだんほんぶ 1 1	団本部	H28. 3	6 年	富 士 通 ゼネラル	R7. 5
				いくしょうだんほんぶ 1 2	団本部	H28. 3	6 年		R7. 5
				いくしょうだんほんぶ 1 3	団本部	H28. 3	6 年		R7. 5
				いくしょうちゅうおう 1 1	中央分団	H28. 3	6 年		R7. 5
				いくしょうもとうら 1 1	本浦分団	H28. 3	6 年		R7. 5
				いくしょうてるしま 1 1	照島分団	H28. 3	6 年		R7. 5
				いくしょうはしま 1 1	羽島分団	H28. 3	6 年		R7. 5
				いくしょうあらかわ 1 1	荒川分団	H28. 3	6 年		R7. 5
				いくしょうあさひ 1 1	旭分団	H28. 3	6 年		R7. 5
				いくしょうせいふく 1 1	生福分団	H28. 3	6 年		R7. 5
				いくしょうかんむりだけ 1 1	冠岳分団	H28. 3	6 年		R7. 5
				いくしょうみなと 1 1	湊分団	H28. 3	6 年		R7. 5
				いくしょうかわみなみ 1 1	川南分団	H28. 3	6 年		R7. 5
				いくしょうかわきた 1 1	川北分団	H28. 3	6 年		R7. 5
				いくしょうかわかみ 1 1	川上分団	H28. 3	6 年		R7. 5

VI 気 象

年 平 均 気 温	・ ・ ・ ・ ・	1 8 . 4℃
-----------	-----------	----------

年 間 降 水 量	・ ・ ・ ・ ・	2 2 8 7 . 5mm
-----------	-----------	---------------

年 平 均 風 速	・ ・ ・ ・ ・	3 . 1 m/s
-----------	-----------	-----------

1 気象観測の状況

(R 3 年中) 【観測所：消防署】

月 区 分		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
快晴日数		4	4	9	2	0	0	1	0	1	6	3	3	33
晴天日数		10	9	5	13	7	10	9	14	16	16	14	10	133
曇天日数		16	14	14	10	13	15	18	9	10	8	9	17	153
雨天日数		1	1	3	5	11	5	3	7	3	1	4	1	45
雪日数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
降水日数		13	8	13	7	18	12	8	0	0	0	5	10	94
降水量		42.0	91.5	132.0	106.5	493.0	246.0	188.0	647.5	177.5	10.5	68.5	84.5	2287.5
最大日降水量		11.0	31.5	55.0	38.5	88.5	80.0	113.0	計測器故障			37.5	75.0	最大/日 113.0
風速	平均	2.8	3.5	2.9	3.1	3.2	2.4	3.1	3.7	3.3	3.2	3.0	3.1	年平均 3.1
	瞬間最大	20.8	25.1	19.2	18.0	23.5	14.9	23.0	27.0	19.4	12.8	18.9	23.3	最大/年 27.0
気温	平均	8.5	11.5	14.8	17.2	20.3	23.7	27.2	28.7	24.8	20.3	13.7	10.5	年平均 18.4
	最高	20.7	22.4	23.9	28.0	26.8	32.0	32.4	35.0	33.0	29.4	20.9	20.6	最高/年 35.0
	最低	-1.8	0.5	4.0	8.0	8.4	15.9	21.7	24.1	16.7	10.8	5.6	0.8	最低/年 -1.8
相対湿度	平均	75.4	73.0	79.6	72.8	89.1	89.1	94.2	89.4	86.4	75.7	76.2	72.4	年平均 81.1
	最高	99.0	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	最高/年 99.9
	最低	35.2	24.2	30.1	23.9	43.0	23.9	1.8	55.1	38.5	38.3	40.2	362.0	最低/年 1.8
実効湿度	平均	75.3	73.1	79.0	72.8	89.3	88.7	94.4	計測器故障			73.6	73.0	年平均 79.9
	最高	97.7	90.3	95.7	94.9	99.7	99.0	99.6				87.4	73.0	最高/年 99.7
	最低	54.5	51.2	60.0	53.9	64.9	69.0	83.5				54.7	62.5	最低/年 51.2
現地気圧	平均	1020.9	1018.7	1017.0	1016.2	1011.0	1007.3	1011.4	1010.3	1008.8	1015.0	1019.1	1020.5	年平均 1014.7
	最高	1030.1	1027.2	1027.5	1029.3	1021.3	1017.1	1017.4	1018.7	1018.7	1022.8	1031.4	1028.1	最高/年 1031.4
	最低	1008.3	1002.0	1005.1	1006.4	1001.2	995.8	1001.2	1002.8	970.5	1007.2	1006.2	1008.6	最低/年 970.5

備 考

天候の記録は、午前9時現在の観測である。
降水日数は、降水量が0.5mm以上あった日数である。

2 風向の状況

(R3年中)

月 風 向	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年 平 均
北北東 (NNE)	23.0	14.3	15.6	14.5	7.5	11.5	8.0	計測器故障			16.9	18.9	14.5
北 東 (NE)	17.0	20.3	20.4	20.2	20.8	25.2	12.1				21.6	23.5	20.1
東北東 (ENE)	3.8	9.1	8.8	14.6	8.6	15.7	4.8				5.6	2.3	8.1
東 (E)	2.0	1.4	6.5	7.5	5.7	8.4	2.6				5.3	1.3	4.5
東南東 (ESE)	0.6	0.8	3.5	2.7	3.0	2.0	4.4				3.1	0.5	2.3
南 東 (SE)	0.3	0.6	1.4	1.1	3.9	1.1	4.1				0.8	0.2	1.5
南南東 (SSE)	0.5	1.8	0.8	0.7	6.6	1.1	10.6				0.1	0.3	2.5
南 (S)	1.0	1.2	1.6	0.9	6.1	1.6	26.1				0.1	0.4	4.3
南南西 (SSW)	0.9	1.3	1.5	1.1	3.6	1.4	10.0				0.0	0.3	2.2
南 西 (SW)	1.7	2.5	2.1	1.9	4.1	3.5	3.6				0.1	0.6	2.2
西南西 (WSW)	2.6	3.1	4.2	4.3	7.1	11.7	5.7				1.2	1.9	4.6
西 (W)	2.5	4.4	7.8	8.6	10.1	7.0	3.0				2.6	3.4	5.5
西北西 (WNW)	4.5	11.0	6.3	6.8	6.8	1.9	1.1				3.2	5.3	5.2
北 西 (NW)	8.5	11.7	5.7	5.4	3.0	2.0	0.6				14.2	15.2	7.4
北北西 (NNW)	14.7	8.3	7.5	4.4	1.6	2.4	1.0				12.6	13.9	7.4
北 (N)	16.4	8.1	6.4	5.5	1.7	3.5	2.2				12.6	12.0	7.6

※ 風向頻度(%)を示す。

3 各地の降水量(防災テレメーターによる。)

(R2年中)

観測所 月	冠 岳	生 福	旭	荒 川	羽島支所	土 川	消 防 署
1							42.0
2							91.5
3							132.0
4							106.5
5							493.0
6	防災テレメーター更新中のため観測データなし						246.0
7							188.0
8							647.5
9							177.5
10							10.5
11							68.5
12							84.5
合計							2,287.5

VII 付 録

1 串木野市消防本部の沿革

明治36年12月	○串木野村消防組創立
大正5年9月	○腕用ポンプ購入
大正5年	○市来村湊町に公設消防組を組織（他の地域は、私設消防組を組織）
大正9年	○青年団により私設の島内消防組を組織（鳶口10丁、水汲み用木製ツルベ10個、梯子1つを配備）
昭和6年10月	○行幸記念事業で手引ガソリンポンプ購入
昭和9年5月	○消防ポンプ自動車（フォード）購入
6月	○優良消防組として県知事表彰を受ける。
昭和10年4月	○町制施行により串木野町消防組に改称
昭和14年4月	○内務省令により串木野町警防団（7分団）に改称
	○市来町警防団を結成（4分団）
昭和20年6月	○中央分団地区から本浦地区を分離し、水上分団を設立
昭和22年8月	○警防団の組織を串木野町消防団（8分団）、市来町警防団（4分団）として改編
昭和23年5月	○串木野町消防団常備部発足（部員12名、消防車〔フォード〕1台）
9月	○電話器が常備詰所に設置される。
昭和25年8月	○優良消防団として消防庁長官表彰を受ける。
10月	○市制施行により串木野市消防団と改称
昭和26年4月	○常備部団員定員14名となる。（2名増員）
昭和29年1月	○常備部詰所を浜田通りロータリー南西角に移転（現在の旭町1番地）
3月	○常備部に消防ポンプ自動車（日産）を購入
4月	○串木野市消防本部・消防署設置（職員定数15名）
	初代消防長 大園純夫 就任
10月	○消防職員1名採用（実員15名）
昭和30年6月	○中央分団に消防ポンプ自動車（トヨタ）を購入し、運搬車を照島分団に配置替
8月	○水上分団及び照島分団に小型動力ポンプ（ラビット）を購入
9月	○消防団定数条例改正 237名となる。
	○水上分団を本浦分団に改称
昭和31年5月	○消防職員1名採用（実員15名）
昭和31年10月～	○生福、旭、羽島、荒川、冠岳、中央の各分団に小型動力ポンプ、本浦分団に運
昭和32年10月	搬車を購入
昭和33年4月	○消防団定数条例改正 227名となる。
6月	○消防職員1名採用（実員15名）
11月	○第1回串木野市消防操法技能競技大会を実施
昭和34年6月	○消防職員1名採用（実員15名）
昭和34年7月～	○照島分団に運搬車、本浦・照島分団に小型動力ポンプ、消防署に水槽付ポンプ
昭和35年10月	自動車を購入
昭和36年4月	○消防職員1名採用（実員16名）
9月	○串木野警察署と「災害救助に関する協定」を締結
昭和37年4月	○中央分団に運搬車、照島分団別府班に小型動力ポンプを購入
昭和38年11月	○本浦分団に消防ポンプ自動車（日産）を購入し、運搬車を旭分団に配置替
昭和39年2月	○本浦分団及び照島分団別府班のポンプ庫を新築
5月	○羽島分団土川班に小型動力ポンプを購入
昭和40年4月	○消防職員1名採用（実員17名）
7月	○消防団定数条例改正 204名となる。

昭和40年	7月	○串木野局の電話自動化により119番の専用線を開設
昭和41年	2月	○日本消防協会より、消防団表彰旗を授与される。
	4月	○消防職員1名採用（実員17名）
	7月	○第2代消防長 大久保重雄 就任
		○消防職員1名市役所から転入（実員17名）
	11月	○消防署に消防ポンプ自動車（トヨタ）を購入し、昭和29年3月購入の消防ポンプ自動車（日産）を羽島分団に配置替
昭和42年	1月	○羽島分団の車庫を羽島5, 237番地に新築
	7月	○消防職員1名市役所から転入（実員18名）
		○市来町・東市来町との消防相互応援協定を締結
	8月	○中央分団に小型動力ポンプを購入
		○消防団定数条例改正 210名となる。
	9月	○消防職員1名採用（実員19名）
昭和43年	2月	○消防署に救急自動車（日産セドリック）を購入、任意で救急業務を開始
	3月	○消防職員1名採用（実員20名）
	5月	○川内市と消防相互応援協定を締結
	12月	○生福分団に消防ポンプ自動車（日産）を購入
昭和44年	3月	○消防無線局を開設
	4月	○消防職員1名市役所から転入（実員21名）
	11月	○照島分団に消防ポンプ自動車（トヨタ）を購入（運搬車を廃車）
	12月	○市来町・東市来町との救急業務応援協定を締結
昭和45年	1月	○消防職員1名採用（実員21名）
	4月・5月	○川内市と救急業務相互応援協定、里村・上甕村と救急業務応援協定を締結
	6月	○串木野海上保安部と「船舶火災の消火に関する業務協定」を締結
昭和46年	3月	○旭分団に消防ポンプ自動車（日産）を購入（運搬車を廃車）
	6月	○消防法施行令の一部改正により本市の救急業務実施が義務化
	7月・8月	○樋脇町と消防相互応援協定並びに救急業務応援協定、下甕村と救急業務応援協定を締結
	9月	○消防職員1名採用（実員22名）
昭和46年	10月	○第3代消防長 入江 森 就任
	11月	○消防職員1名採用（実員22名）
		○中央分団に消防ポンプ自動車（トヨタ）を購入（更新）
昭和47年	2月	○市合同庁舎が昭和通133番地1に新築され、消防本部・署も移転
		○中央分団の車庫詰所を旭町1番地2に新築
	3月	○優良消防機関（消防本部・消防団）として消防庁長官表彰を受ける。
	8月	○荒川分団の車庫詰所を荒川2, 347番地に新築
	12月	○冠岳分団の車庫詰所を冠岳12, 984番地2に新築
		○冠岳分団に消防ポンプ自動車（日産）、羽島分団に小型動力ポンプを購入
昭和48年	2月	○鹿島村と救急業務応援協定を締結
	3月	○生命保険協会から救急自動車の寄贈を受ける。
	7月	○日本損害保険協会から消防ポンプ自動車の寄贈を受け、消防署に配置
		○消防職員1名採用（実員23名）
	9月	○消防職員1名採用（実員24名）

昭和48年11月	○荒川分団に消防ポンプ自動車（日産）を購入 ○旭分団の車庫詰所を下名14, 105番地に新築
昭和49年4月	○消防職員1名採用（実員24名）
11月	○羽島地区の電話自動化により119番専用線を開設
12月	○羽島分団に消防ポンプ自動車（日産）を購入（更新）
昭和50年9月	○照島分団の車庫詰所を下名7, 574番地1に新築
10月	○消防署に水槽付消防ポンプ自動車（日野）を購入（更新）
12月	○中央分団に運搬車（トヨタ）を購入（更新）
昭和51年4月	○羽島分団の車庫に隣接して詰所を新築
6月	○消防団本部に赤バイ（ヤマハ250cc）を購入
7月	○本浦分団及び生福分団に小型動力ポンプを購入（更新）
10月	○本浦分団に消防ポンプ自動車（日産）を購入（更新） ○市来町消防団役場分団結成 日本消防協会から可搬動力ポンプ積載車の寄贈及び松下町長の命を受け、 17名で発足する。
12月	○職員定数条例改正 26名となる。
昭和52年4月	○消防職員3名採用（実員26名）
9月	○日本消防協会から救急自動車の寄贈を受ける。 ○旭、照島分団に小型動力ポンプを購入（更新）
昭和53年3月	○職員定数条例改正 28名となる。
4月	○消防職員2名採用（実員28名）
5月	○荒川分団に小型動力ポンプを購入（更新）
7月	○羽島分団土川班に小型動力ポンプを購入（更新）
10月	○日本防火協会から広報車の寄贈を受ける。
昭和54年3月	○羽島分団土川班のポンプ庫詰所を羽島9, 675番地に新築
4月	○消防職員2名採用（実員30名）
6月	○照島分団及び照島分団別府班に小型動力ポンプを購入（更新）
8月	○荒川分団に小型動力ポンプを購入（更新）
9月	○荒川分団の小型動力ポンプ（53年5月購入分）を旭分団に配置替
昭和54年11月	○消防署に消防ポンプ自動車（日野）を購入（更新） ○本浦分団の車庫詰所を西浜町1番地に新築
昭和55年1月	○第4代消防長 軍神 計 就任
6月	○中央分団に小型動力ポンプを購入（更新）
昭和55年7月	○冠岳分団に小型動力ポンプを購入（更新）
12月	○生福分団の車庫詰所を上名9, 129番地に新築
昭和56年2月	○日本自動車工業会から救急車の寄贈を受ける。
4月	○消防職員2名採用（実員29名）
5月	○川内地区消防組合と「消防及び救急業務応援協定」を締結（川内市との従前の協定を破棄）
8月	○第1回串木野市消防団規律訓練大会を実施
昭和57年3月	○甕島4村及び樋脇町との救急業務応援協定を破棄
10月	○日置地区消防組合と「消防・救急業務応援協定」を締結（従前の協定を破棄）

昭和57年11月	○生福分団に消防ポンプ自動車（日産）を購入（更新）
昭和58年12月	○照島分団別府班のポンプ庫詰所を下名3，362番地2に新築
昭和59年2月	○消防本部・署の庁舎を昭和通133番地1に新築し移転
4月	○指宿地区消防組合と「消防無線使用時の混信に関する協定」を締結
11月	○照島分団に消防ポンプ自動車（日野）を購入（更新）
昭和60年3月	○第5代消防長 植屋一郎 就任
4月	○消防職員1名採用（実員28名） ○串木野ライオンズクラブから指揮連絡車（日産）の寄贈を受け、消防署に配置
10月	○中央分団に消防ポンプ自動車（日野）を購入（更新）
昭和61年10月	○消防職員条例定数改正 31名となる。 ○羽島分団土川班に小型動力ポンプ積載車（トヨタ）を購入
12月	○市来町・樋脇町と「消防相互応援協定」を締結 ○川南分団に消防ポンプ自動車を購入（更新）
昭和62年4月	○消防職員4名採用（実員31名）
10月	○消防署に消防ポンプ自動車（三菱）を購入（更新）
12月	○川上分団に消防ポンプ自動車を購入（更新）
昭和63年12月	○旭分団に消防ポンプ自動車（日産）を購入（更新）
平成元年2月	○消防署に救急車（トヨタ）を購入（更新）
4月	○消防職員1名採用（実員31名）
10月	○消防職員条例定数改正 34名となる。 ○冠岳分団に消防ポンプ自動車（日産）を購入（更新）
平成2年1月	○コアガス鹿児島㈱から救急車（トヨタ）の寄贈を受ける。
4月	○消防職員3名採用（実員34名）
10月	○消防職員条例定数改正 38名となる。 ○消防署にはしご付消防自動車（24m級）を購入 ○荒川分団に消防ポンプ自動車（日産）を購入（更新）
平成3年3月	○串木野市消防団条例の全部改正
4月	○消防職員2名採用（実員36名）
平成3年9月	○消防職員1名採用（実員37名） ○消防署に水槽付消防ポンプ自動車（三菱）を購入（更新）
平成4年1月	○鹿児島県消防相互応援協定締結
3月	○羽島分団に消防ポンプ自動車（三菱）を購入（更新）
8月	○日本消防協会から小型動力ポンプ付積載車（いすず）の寄贈を受け、中央分団に配置 ○石油コンビナート等特別防災区域指定 ○本浦分団に消防ポンプ自動車（三菱）を購入（更新）
10月	○消防庁舎の車庫、倉庫を増改築
11月	○昭和50年に購入した中央分団の運搬車を消防署に配置替 ○消防署に化学消防ポンプ自動車（三菱）を購入
平成5年3月	○中央分団の車庫詰所を旭町1番地2に中央地区コミュニティ消防センターとして新築

平成 5 年	4 月	○第 6 代消防長 俣木一幸 就任 ○消防職員 3 名採用（実員 37 名） ○役場分団に小型動力ポンプ積載車を購入（更新）
平成 6 年	3 月	○荒川分団の車庫詰所を荒川 2, 450 番地に新築
	4 月	○消防職員 1 名採用（実員 37 名） ○串木野海上保安部と「船舶火災の消火に関する業務協定」の一部改正
	8 月	○鹿児島県消防相互応援協定の一部改正
	10 月	○照島分団別府班に小型動力ポンプ積載車（トヨタ）を購入（更新）
平成 7 年	2 月	○旭分団の車庫詰所を下名 14, 103 番地 15 に旭地区コミュニティ消防センターとして新築
	3 月	○冠岳分団の車庫詰所を冠岳 12, 984 番地 2 に冠岳地区コミュニティ消防センターとして新築
	4 月	○第 7 代消防長 尾崎正躬 就任 ○消防職員 2 名採用（実員 38 名）
平成 8 年	3 月	○照島分団の車庫詰所を東島平町 417 番地 1 に照島地区コミュニティ消防センターとして新築 ○団本部に指揮連絡車（トヨタ）を購入
	4 月	○消防職員 1 名採用（実員 38 名） ○日本損害保険協会から救助工作車の寄贈を受け消防署に配置
	8 月	○生福分団に消防ポンプ自動車（三菱）を購入（更新） ○本浦分団、生福分団に小型動力ポンプを購入（更新）
平成 9 年	1 月	○消防署に消防ポンプ自動車（三菱）を購入（更新）
	3 月	○羽島分団の車庫詰所を羽島 5, 218 番地に羽島コミュニティ消防センターとして新築
	4 月	○第 8 代消防長 植ノ原敬一 就任 ○消防職員 1 名採用（実員 38 名）
	9 月	○日本地下石油備蓄(株)串木野事業所と応援協定を締結
	11 月	○中央仮設株式会社から指揮広報車の寄贈を受け消防署に配置
	12 月	○湊・川北分団に消防ポンプ自動車を購入（更新）
平成 10 年	1 月	○羽島分団に小型動力ポンプを購入（更新）
	2 月	○旭分団に小型動力ポンプを購入（更新）
	4 月	○川内地区消防組合と「携帯電話等からの 119 番通報転送等に関する協定」を締結
	8 月	○日本消防協会から軽可搬ポンプ付軽積載車の寄贈を受ける。
	12 月	○照島分団に小型動力ポンプを購入（更新）
平成 11 年	4 月	○第 9 代消防長 橋之口博繁 就任 ○消防職員 1 名採用（実員 38 名）
平成 12 年	3 月	○串木野市医師会と「救急救命士に対する医師の指示に関する協定」を締結 ○本浦分団車庫詰所を西浜町 1 番地 2 に本浦地区コミュニティ消防センターとして新築（平成 11 年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
	11 月	○消防署に小型動力ポンプ付積載車を購入 （平成 12 年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業） ○高規格救急自動車を購入し、平成 13 年 1 月 1 日運用開始 （平成 12 年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）

平成12年11月	○気象情報収集装置を整備（平成12年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
12月	○鹿児島県より原子力防災資機材として軽トラック（運搬車）の貸与を受け、消防署に配置
平成13年4月	○第10代消防長 平石耕二 就任
	○消防署に救急車（トヨタ）を購入（更新）
12月	○荒川、旭、冠岳分団に小型動力ポンプ（B3級）を購入 （平成13年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
平成14年9月	○旭分団芹ヶ野ポンプ庫撤去
平成15年4月	○第11代消防長 福菌照雄 就任
	○消防職員1名採用（実員38名）
	○川南・川上分団に小型動力ポンプを購入（更新）
7月	○串木野・市来合併協議会が設置され、消防本部は消防防災分科会を担当
10月	○生福地区コミュニティ消防センターの建設用地（上名6,660番1外2筆・面積452.33㎡）を購入（平成15年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
平成16年4月	○串木野市消防本部の組織等に関する規則の一部改正 「施設装備係」を「救急救助係」に改めるとともに、消防本部の事務分掌も一部改めた。
10月	○湊・川北分団に小型動力ポンプを購入（更新）
平成17年2月	○日置地区消防組合と「川内道路における消防相互応援協定」を締結
3月	○国土交通省鹿児島国道事務所・県警察本部交通部高速道路交通警察隊・日置地区消防組合と「南九州西回り自動車道における緊急時の通報並びに出動に関する協定」を締結（3月13日 串木野・市来区間開通）
	○生福分団の車庫詰所を上名6,660番地1に生福地区コミュニティ消防センターとして新築（平成16年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
	○本浦分団、照島分団、生福分団に小型動力ポンプ（B3級）を購入 （平成16年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
	○簡易地図検索装置を整備 （平成16年度緊急地域雇用創出特別基金事業及び原子力防災資機材）
平成17年4月	○第12代消防長 野田 豊 就任

2 串木野市消防本部の歴代消防長

代	就 任 年 月	退 任 年 月	氏 名
初 代	昭和29年 4月	昭和41年 6月	大 園 純 夫
第 2 代	昭和41年 7月	昭和46年 9月	大 久 保 重 雄
第 3 代	昭和46年10月	昭和54年12月	入 江 森
第 4 代	昭和55年 1月	昭和60年 3月	軍 神 計
第 5 代	昭和60年 3月	平成 5年 3月	植 屋 一 郎
第 6 代	平成 5年 4月	平成 7年 3月	俣 木 一 幸
第 7 代	平成 7年 4月	平成 9年 3月	尾 崎 正 躬
第 8 代	平成 9年 4月	平成11年 3月	植 ノ 原 敬 一
第 9 代	平成11年 4月	平成13年 3月	橋 之 口 博 繁
第10代	平成13年 4月	平成15年 3月	平 石 耕 二
第11代	平成15年 4月	平成17年 3月	福 藺 照 雄
第12代	平成17年 4月	平成17年10月	野 田 豊

3 歴代消防団長

(1) 旧串木野市

	代	就 任 年 月	退 任 年 月	氏 名
消 防 組	初 代	明治36年12月	明治44年 5月	中 尾 浅 助
	第 2 代	明治44年 6月	大正 5年 7月	江 藤 千 代 蔵
	第 3 代	大正 5年 7月	大正 5年11月	松 元 幸 助
	第 4 代	大正 5年11月	大正11年 6月	折 田 金 次 郎
	第 5 代	大正11年 6月	昭和 5年10月	池 田 良 之 助
	第 6 代	昭和 5年10月	昭和14年 3月	江 藤 千 代 蔵
警 防 団	第 7 代	昭和14年 4月	昭和14年 9月	田 尻 森 吉 (町長兼務)
	第 8 代	昭和14年10月	昭和19年 4月	江 藤 千 代 蔵
	第 9 代	昭和19年 4月	昭和22年 7月	花 牟 禮 武 夫
消 防 団	第10代	昭和22年 8月	昭和26年 8月	富 宿 與 助
	第11代	昭和26年 8月	昭和30年 7月	福 山 盛 吉
	第12代	昭和30年 8月	昭和37年 3月	富 宿 與 助
	第13代	昭和37年 4月	昭和43年 3月	須 崎 異
	第14代	昭和43年 4月	昭和47年 3月	寺 師 彦 好
	第15代	昭和47年 4月	昭和63年 3月	益 満 利 幸
	第16代	昭和63年 4月	平成16年 3月	網 屋 長 行
	第17代	平成16年 4月	平成17年10月	岡 田 正 治

(2) 旧市来町 (※ 昭和14年4月に警防団を結成、初代団長は井上新吉でその他については、不明)

	代	就 任 年 月	退 任 年 月	氏 名
消 防 団	初 代	昭和22年 8月	昭和52年 4月	田 崎 勇 蔵
	第 2 代	昭和52年 5月	昭和57年 6月	白 石 久 治
	第 3 代	昭和57年 6月	昭和59年 4月	久 木 藺 耕 平
	第 4 代	昭和59年 5月	平成 3年 9月	西 ノ 園 厚 志
	第 5 代	平成 3年10月	平成 5年 3月	前 田 二 夫
	第 6 代	平成 5年 4月	平成 9年 3月	新 村 明
	第 7 代	平成 9年 4月	平成17年10月	山 元 幸 夫

(3) いちき串木野市

代	就 任 年 月	退 任 年 月	氏 名
初 代	平成17年10月	平成25年 3月	岡 田 正 治
第 2 代	平成25年 4月	平成29年 3月	井 手 迫 正 昭
第 3 代	平成29年 4月	平成31年 3月	大 迫 修 蔵
第 4 代	平成31年 4月	現 在	西 村 博 孝

**火 事 と 救 急 は
1 1 9 番**

いちき串木野市消防本部

鹿児島県いちき串木野市昭和通 133-1

〒896-8601 電 話 0996 (32) 0 1 1 9

F A X 0996 (32) 4 3 9 6